

大磯町障がい者福祉計画策定のための アンケート調査結果報告書

令和2年3月

大 磯 町

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査の設計	1
3 回収結果	1
4 報告書の表記について	1
第2章 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
(1) アンケートの回答者	2
(2) 性別	4
(3) 年代	4
2. 障害者手帳について	5
(1) 障害者手帳の種類	5
(2) 身体障害者手帳の等級	6
(3) 身体障がいの種類	6
(4) 療育手帳の等級	7
(5) 知的障がいの種類	7
(6) 精神障害者保健福祉手帳の等級	8
(7) 精神障がいの種類	8
3. 介護保険について	9
(1) 介護保険の認定状況	9
(2) 現在の介護度	9
4. 日常生活の状況、就労状況について	10
(1) 現在の住まい	10
(2) 同居人	10
(3) 介護・支援の必要	11
(4) 介護者・支援者	12
(5) 介護・支援が必要な項目	13
(6) 収入源	15
(7) 1か月あたりの収入額	15
(8) 働いていない理由	16
5. 健康管理や医療について	17
(1) かかりつけ医師の有無	17
(2) 体調維持のための配慮	17
(3) 医療を受けるうえでの困りごと	19
6. 余暇や地域活動について	20
(1) 外出頻度	20
(2) 地域行事・活動の参加状況	22
(3) 地域とのかかわり	23
7. 福祉サービス等の利用状況・希望について	24
(1) 福祉サービス等の利用状況	24
(2) 訪問系サービスの利用状況	25

(3) 訪問系サービスの利用回数	25
(4) 訪問系サービスの利用意向	26
(5) 訪問系サービスの利用回数意向	26
(6) 日中活動系サービスの利用状況	27
(7) 日中活動系サービスの利用回数	27
(8) 日中活動系サービスの利用意向	28
(9) 日中活動系サービスの利用回数意向	28
(10) 居住系サービスの利用状況	29
(11) 居住系サービスの利用回数	29
(12) 居住系サービスの利用意向	30
(13) 居住系サービスの利用回数意向	30
(14) 児童系サービスの利用状況	31
(15) 児童系サービスの利用回数	31
(16) 児童系サービスの利用意向	32
(17) 児童系サービスの利用回数意向	32
(18) 地域生活支援事業によるサービスの利用状況	33
(19) 地域生活支援事業によるサービスの利用回数	33
(20) 地域生活支援事業によるサービスの利用意向	34
(21) 地域生活支援事業によるサービスの利用回数意向	34
8. 災害対策等について	35
(1) 「避難行動要支援者登録申請」の認知状況	35
(2) 「避難行動要支援者登録」の有無	35
(3) 「避難行動要支援者登録」の意向	35
(4) 「避難行動要支援者登録」をしたくない理由	37
(5) 家族の支援受けられなくなった場合の対処	38
9. 障がいのある方の権利擁護について	40
(1) 「障害者差別解消法」の認知状況	40
(2) 「合理的配慮」の認知状況	40
(3) 「成年後見制度」の認知状況	40
(4) 「成年後見制度」の活用意向	41
10. 障害者の権利擁護について	42
(1) 情報の入手手段	42
(2) 困っていることや不安なこと	43
(3) 相談相手	44
(4) 相談機能を充実に必要なこと	46
11. 今後のあり方について	47
(1) 将来の暮らし方希望	47
(2) 地域での自立した生活に必要な条件	48
(3) 利用したい地域生活支援事業の機能	50
(4) 障がいのある人の権利擁護の取り組み	51
(5) 今後力を入れるべき障がい福祉施策	52
(6) 大磯町の障害福祉サービスの満足度	53
12. 自由意見	54

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、現在町で取り組んでいる、次期「大磯町障がい者福祉計画」策定に向けて、町民の皆様現在の状況やご意見を次期計画に反映させることを目的に実施したものです。

2 調査の設計

- (1) 調査地域 大磯町の全域
- (2) 調査対象 身体障害者手帳・愛の手帳（療育手帳）・精神保健福祉手帳をお持ちの大磯町民
- (3) 配布数 600人
- (4) 調査時期 令和2年1月24日（金）～令和2年2月10日（月）
- (5) 調査方法 郵送による配付・回収

3 回収結果

標本数	回収数	有効回答率
600票	325件	54.2%

4 報告書の表記について

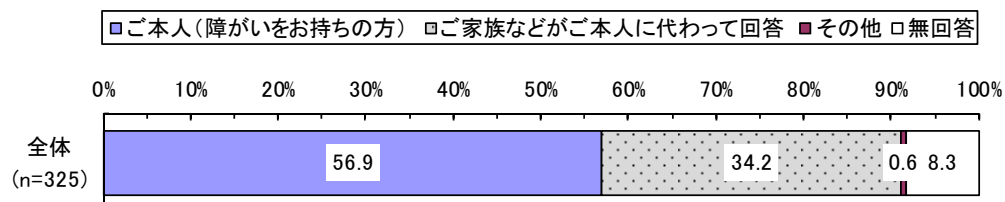
- (1) 調査結果の比率はすべて百分比（%）で表しており、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出しています。なお、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- (2) 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- (3) グラフ中の「n」（net）とは、その質問への回答者数を表します。
- (4) クロス集計の割合は、無回答を除いた回答人数（有効回答数）を分母として算出しているため、有効回答数（n）は異なることがあります。例えば性別の場合、性別を回答していない人がいるため、男性と女性の合計が「全体」になりません。年代や他の設問間クロス集計においても同様です。
- (5) 質問の選択肢は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがあります。

第2章 調査結果

1. 回答者について

(1) アンケートの回答者

◎アンケートに回答していただくのはどなたですか（1つに○印）



アンケートの回答者は、「ご本人（障がいをお持ちの方）」が 56.9%と 5 割半ばを超えて最も高く、次いで「ご家族などがご本人に代わって回答」が 34.2%、「その他」が 0.6%と続いています。

【年代別・手帳の種類別】

単位 (%)	回答数 (n)	ご本人(障がいをお持ちの方)	ご家族などがご本人に代わって回答	その他	無回答
全体	325	56.9	34.2	0.6	8.3
年代別	19歳以下	3.0	93.9	0.0	3.0
	20歳代	37.5	50.0	0.0	12.5
	30歳代	50.0	50.0	0.0	0.0
	40歳代	61.7	29.8	2.1	6.4
	50歳代	70.8	18.8	0.0	10.4
	60歳代	78.0	15.3	1.7	5.1
	70歳以上	60.2	26.5	0.0	13.3
手帳の種類別	身体障害者手帳	67.2	22.2	0.6	10.0
	療育手帳	12.0	77.1	1.2	9.6
	精神障害者保健福祉手帳	64.1	30.8	0.0	5.1
	自立支援医療(精神通院医療)	72.7	23.6	0.0	3.6

年代別に見ると、「ご本人（障がいをお持ちの方）」は“19歳以下”で 3.0%と 1 割を切って他の年代よりも低く、「ご家族などがご本人に代わって回答」が 9 割を超えています。また、10～60 歳代までは、年代が上がるにつれて「ご本人（障がいをお持ちの方）」が高くなる傾向にあり、“50 歳代”と“60 歳代”では 7 割を超えています。

手帳の種類別に見ると、「ご本人（障がいをお持ちの方）」は“療育手帳”で 12.0%と他の手帳所持者よりも低く、「ご家族などがご本人に代わって回答」が 77.7%と 7 割半ばを超えています。また、「ご本人（障がいをお持ちの方）」は“身体障害者手帳”と“精神障害者保健福祉手帳”では 6 割台、“自立支援医療（精神通院医療）”では 7 割を超えています。

【住まい別・同居人別】

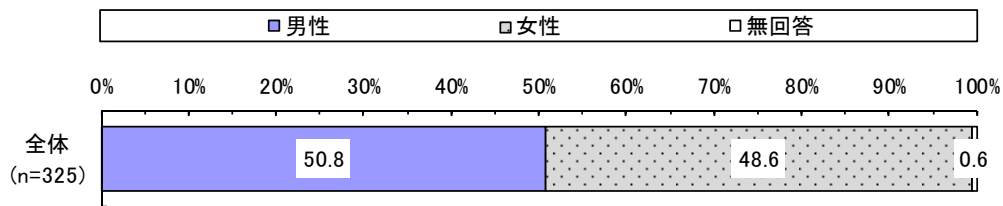
	単位(%)	回答数 (n)	ご本人(障がいをお持ちの方)	ご家族などがご本人に代わって回答	その他	無回答
全体		325	56.9	34.2	0.6	8.3
住まい別	持ち家	243	59.7	32.1	0.8	7.4
	賃貸住宅・寮など	44	65.9	20.5	0.0	13.6
	福祉施設	11	0.0	81.8	0.0	18.2
	病院(1年以上の長期入院)	4	0.0	100.0	0.0	0.0
	グループホーム	5	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他	5	60.0	40.0	0.0	0.0
	同居人別	父母、祖父母、兄弟	132	42.4	51.5	0.8
配偶者		128	77.3	14.8	0.8	7.0
子ども		61	70.5	16.4	1.6	11.5
その他親族		5	60.0	40.0	0.0	0.0
一人で暮らしている		30	86.7	0.0	0.0	13.3
施設・寮などで共同生活		18	5.6	83.3	0.0	11.1
病院に入院		4	0.0	75.0	0.0	25.0
その他		3	33.3	66.7	0.0	0.0

住まい別に見ると、“持ち家”、“賃貸住宅・寮など”、“その他”では「ご本人(障がいをお持ちの方)」が6割前後と高く、“福祉施設”、“病院(1年以上の長期入院)”、“グループホーム”では「ご家族などがご本人に代わって回答」が8割以上で高くなっています。

同居人別に見ると、“配偶者”、“子ども”、“その他親族”、“一人で暮らしている”では、「ご本人(障がいをお持ちの方)」が高く、それ以外では「ご家族などがご本人に代わって回答」が高くなっています。

(2) 性別

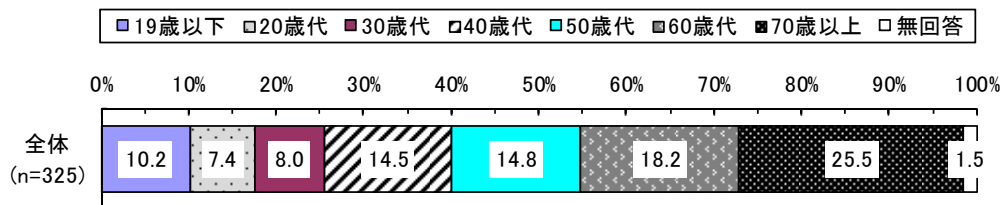
問1 あなたの性別を教えてください。(1つに○印)



性別は、「男性」が50.8%、「女性」が48.6%と、男性が女性を2.2ポイント上回っています。

(3) 年代

問2 あなたの年齢を教えてください。(1つに○印)

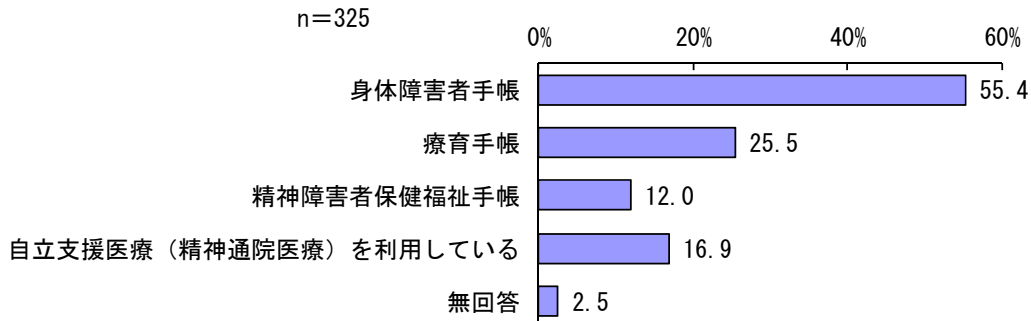


年代は、「70歳以上」が25.5%と全体の4分の1を超えて最も高く、次いで「60歳代」が18.2%、「50歳代」が14.8%、「40歳代」が14.5%と続いています。

2. 障害者手帳について

(1) 障害者手帳の種類

問3 あなたがお持ちの障害者手帳や受けている医療費の助成をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)



障害者手帳の種類や助成の状況は、「身体障害者手帳」が55.4%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「療育手帳」が25.5%、「自立支援医療(精神通院医療)を利用している」が16.9%、「精神障害者保健福祉手帳」が12.0%と続いています。

【性別・年代別】

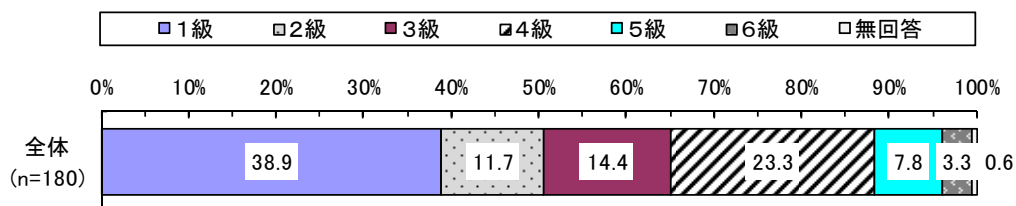
単位 (%)		回答数 (n)	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	自立支援医療(精神通院医療)を利用している	無回答
全体		325	55.4	25.5	12.0	16.9	2.5
性別	男性	165	55.8	29.1	12.7	10.9	3.0
	女性	158	55.7	22.2	11.4	22.8	1.3
年代別	19歳以下	33	18.2	78.8	3.0	6.1	0.0
	20歳代	24	20.8	62.5	8.3	16.7	8.3
	30歳代	26	7.7	57.7	19.2	38.5	0.0
	40歳代	47	36.2	29.8	25.5	27.7	2.1
	50歳代	48	62.5	18.8	14.6	14.6	0.0
	60歳代	59	79.7	1.7	13.6	11.9	3.4
	70歳以上	83	85.5	3.6	4.8	12.0	2.4

性別に見ると、「療育手帳」では“男性”が“女性”を6.9ポイント上回っており、「自立支援医療(精神通院医療)を利用している」では“女性”が“男性”を11.9ポイント上回っています。

年代別に見ると、「身体障害者手帳」は30歳代から年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60歳代以上で8割前後となっています。反対に「療育手帳」は年代が下がるにつれ高くなる傾向にあり、“19歳以下”で78.8%と8割近くになっています。「精神障害者保健福祉手帳」と「自立支援医療(精神通院医療)を利用している」は30~40歳代で他の年代よりも高くなっています。

(2) 身体障害者手帳の等級

問3 身体障害者手帳をお持ちの方は該当する等級に○をつけてください。(1つに○印)

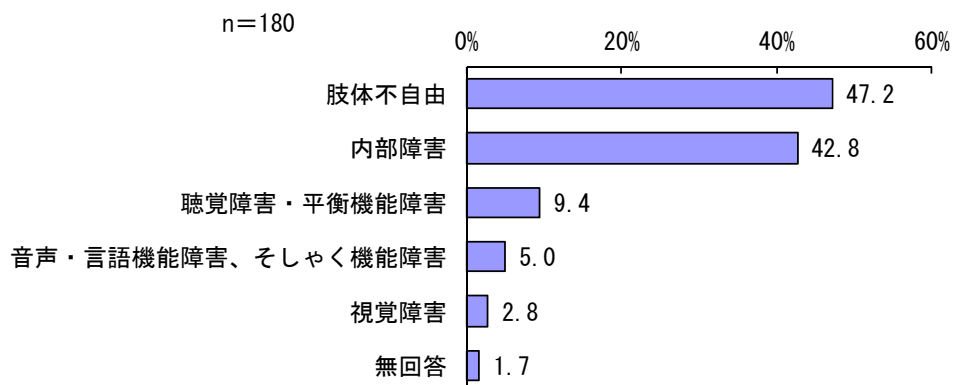


身体障害者手帳の等級は、「1級」が38.9%と4割近くで最も高く、次いで「4級」が23.3%、「3級」が14.4%、「2級」が11.7%と続いています。

(3) 身体障がいの種類

問3で「身体障害者手帳」と答えた方にお聞きします。

問3-1 身体障害の種類は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

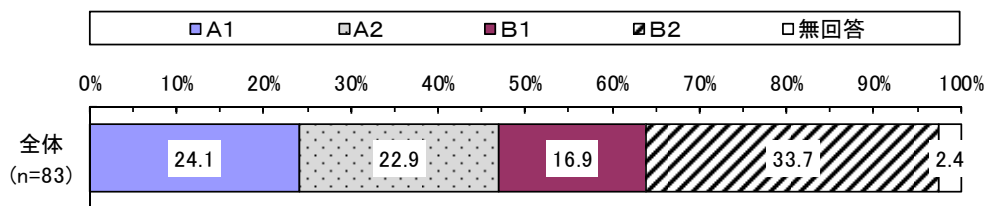


身体障害者手帳所持者の身体障がいの種類は、「肢体不自由」が47.2%、「内部障害※」が42.8%とともに4割を超えており、他の障がいよりも突出して高くなっています。次いで「聴覚障害・平衡機能障害」が9.4%、「音声・言語機能障害、そしゃく機能障害」が5.0%、「視覚障害」が2.8%と続いています。

※内部障害：心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓の障害など

(4) 療育手帳の等級

問3 療育手帳をお持ちの方は該当する等級に○をつけてください。(1つに○印)

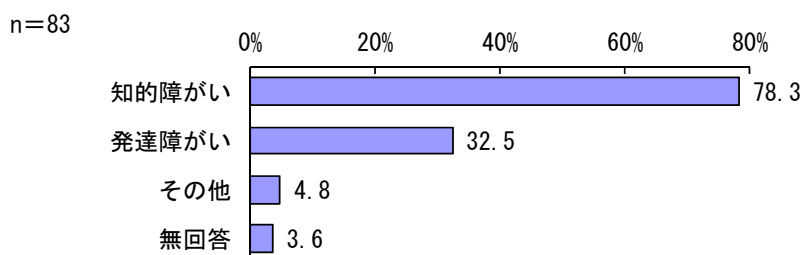


療育手帳の等級は、「B2」が33.7%と3割を超えて最も高く、次いで「A1」が24.1%、「A2」が22.9%、「B1」が16.9%と続いています。

(5) 知的障がいの種類

問3で「療育手帳」と答えた方にお聞きします。

問3-2 知的障がいの種類は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

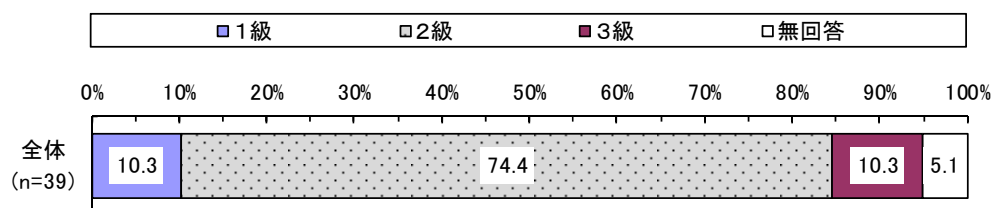


療育手帳所持者の知的障がいの種類は、「知的障がい」が78.3%と8割近くで突出して高く、「発達障がい※」が32.5%、「その他」が4.8%と続いています。

※発達障がい：自閉症スペクトラム・学習障がい・注意欠陥／多動性障がい等

(6) 精神障害者保健福祉手帳の等級

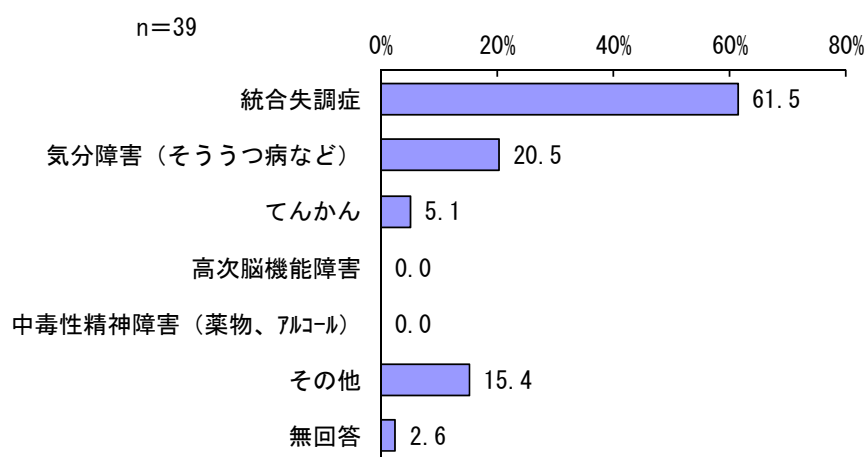
問3 精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は該当する等級に○をつけてください。(1つに○印)



精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が74.4%と全体の約4分の3を占めて最も高く、次いで「1級」と「3級」がともに10.3%となっています。

(7) 精神障がいの種類

問3で「精神障害者保健福祉手帳」と答えた方にお聞きします。
問3-3 精神障がいの種類は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○印)



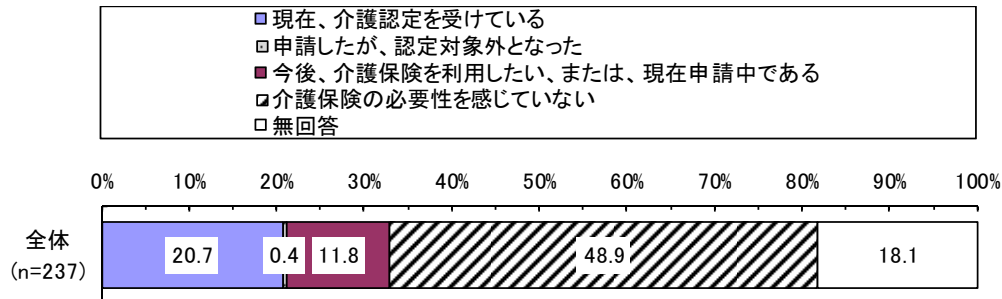
精神障害者保健福祉手帳の精神障がいの種類は、「統合失調症」が61.5%と6割を超えて突出して高く、次いで「気分障害 (そううつ病など)」が20.5%、「その他」が15.4%、「てんかん」が5.1%と続いています。

3. 介護保険について

(1) 介護保険の認定状況

問4は年齢が40歳以上の方にお聞きします。

問4 あなたは、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○印)



介護保険の認定状況は、「介護保険の必要性を感じていない」が48.9%と5割近く占めて最も高く、次いで「現在、介護認定を受けている」が20.7%、「今後、介護保険を利用したい、または、現在申請中である」が11.8%、「申請したが、認定対象外となった」が0.4%と続いています。

【性別】

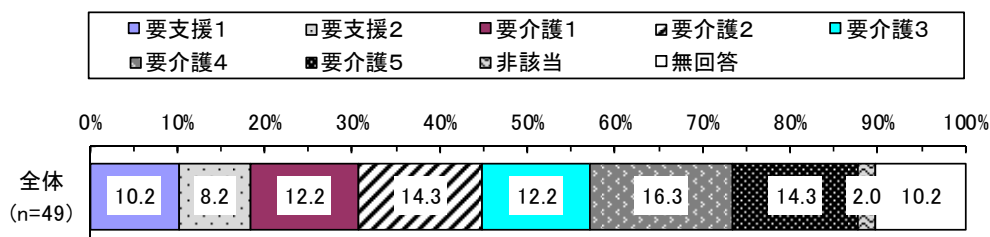
単位 (%)	回答数 (n)	現在、介護認定を受けている	申請したが、認定対象外となった	今後、介護保険を利用したい、または、現在申請中である	介護保険の必要性を感じていない	無回答
全体	237	20.7	0.4	11.8	48.9	18.1
性別 男性	114	20.2	0.9	10.5	55.3	13.2
性別 女性	123	21.1	0.0	13.0	43.1	22.8

性別に見ると、「今後、介護保険を利用したい、または、現在申請中である」は“女性”が“男性”を2.5ポイント上回っており、「介護保険の必要性を感じていない」は“男性”が“女性”を12.2ポイント上回っています。

(2) 現在の介護度

問4で「現在、介護認定を受けている」と答えた方にお聞きします。

問4-1 現在の介護度を教えてください。(1つに○印)

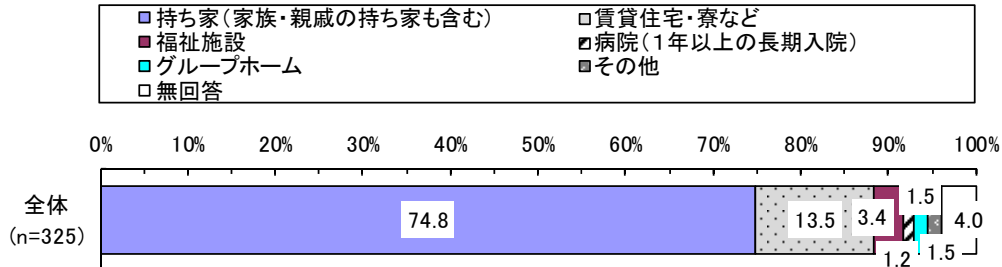


現在の介護度は、「要介護4」が16.3%と最も高く、次いで「要介護2」と「要介護5」がともに14.3%、「要介護1」と「要介護3」がともに12.2%と続いています。

4. 日常生活の状況、就労状況について

(1) 現在の住まい

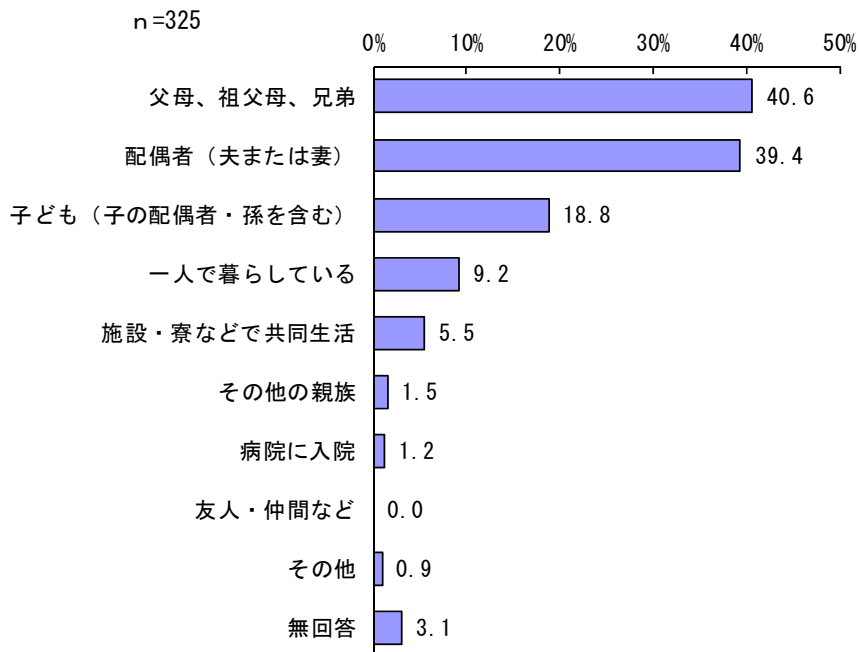
問5 あなたの現在のお住まい（生活の場）はどこですか。病院に入院中（1年未満）の方は、入院する前のお住まいについてお答えください。（1つに○印）



現在の住まいは、「持ち家（家族・親戚の持ち家も含む）」が74.8%と全体の4分の3を占めて最も高く、次いで「賃貸住宅・寮など」が13.5%、「福祉施設」が3.4%と続いています。

(2) 同居人

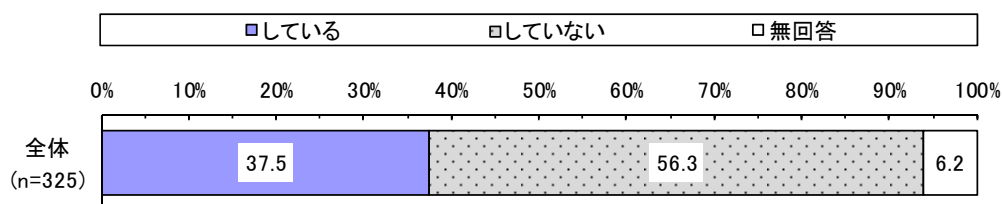
問6 現在、あなたと一緒に暮らしている人は、どなたですか。あなたから見た続柄でお答えください。（あてはまるものすべてに○印）



現在の同居人は、「父母、祖父母、兄弟」が40.6%、「配偶者（夫または妻）」が39.4%と4割前後突出して高く、次いで「子ども（子の配偶者・孫を含む）」が18.8%と続いています。また、「一人で暮らしている」が9.2%と1割近くになっています。

(3) 介護・支援の必要

問7 あなたは、普段の生活で介護・支援を必要としていますか。(1つに○印)



介護・支援を必要としているかは、必要と「している」が37.5%と3割半ばを超えています。

【手帳の種類別】

単位 (%)	回答数 (n)	している	していない	無回答
全体	325	37.5	56.3	6.2
手帳の種類別				
身体障害者手帳	180	33.9	62.8	3.3
療育手帳	83	62.7	27.7	9.6
精神障害者保健福祉手帳	39	35.9	53.8	10.3
自立支援医療(精神通院医療)	55	21.8	67.3	10.9

手帳の種類別に見ると、介護・支援を必要と「している」は“療育手帳”で62.7%と6割を超えて他の手帳所持者よりも高くなっています。

【同居人別】

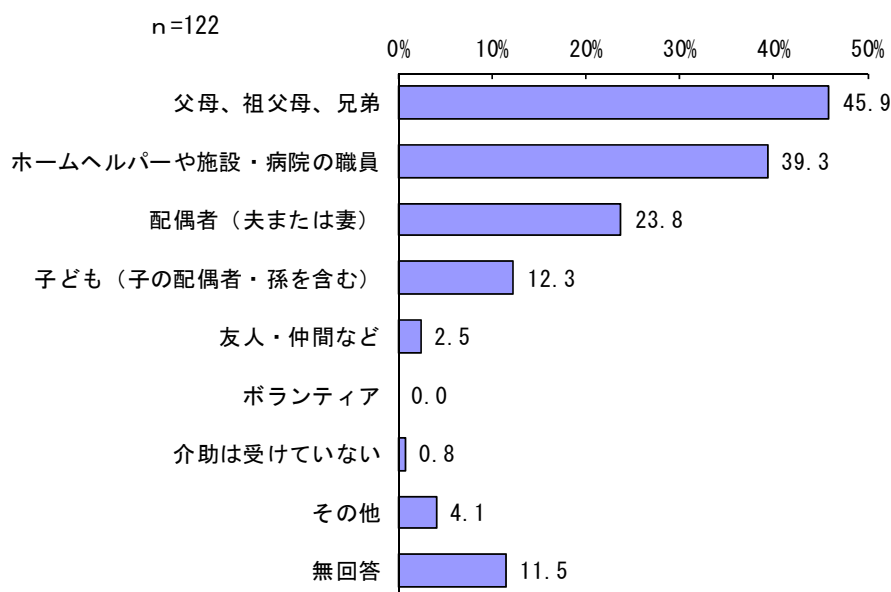
単位 (%)	回答数 (n)	している	していない	無回答
全体	325	37.5	56.3	6.2
同居人別				
父母、祖父母、兄弟	132	43.2	50.8	6.1
配偶者	128	25.8	71.1	3.1
子ども	61	27.9	68.9	3.3
その他親族	5	20.0	80.0	0.0
一人で暮らしている	30	20.0	76.7	3.3
施設・寮などで共同生活	18	94.4	5.6	0.0
病院に入院	4	75.0	25.0	0.0
その他	3	33.3	33.3	33.3

同居人別に見ると、介護・支援を必要と「している」は“施設・寮などで共同生活”が94.4%と9割半ば近くで他の同居人よりも高くなっており、“病院に入院”も75.0%と7割半ばを占めています。

(4) 介護者・支援者

問7で介護・支援を必要と「している」と答えた方にお聞きします。

問8-1 普段、あなたを介護・支援している方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○印)



普段の生活の介護者・支援者は、「父母、祖父母、兄弟」が45.9%と最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設・病院の職員」が39.3%、「配偶者（夫または妻）」が23.8%と続いています。

【住まい別】

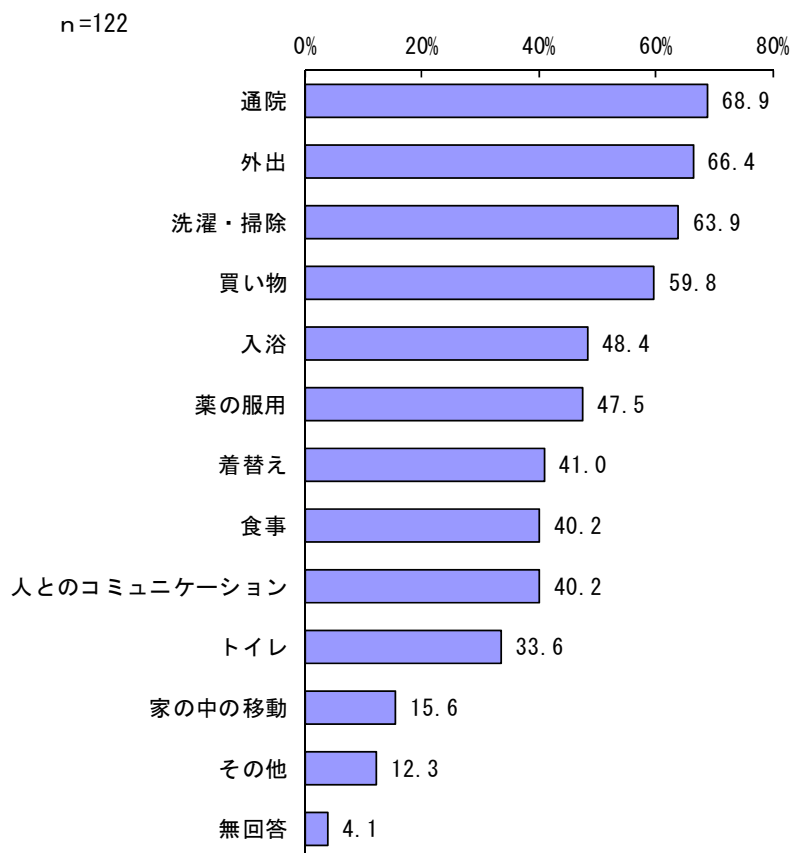
単位 (%)	回答数 (n)	父母、祖父母、兄弟	配偶者（夫または妻）	子ども（子の配偶者・孫を含む）	友人・仲間など	ボランティア	ホームヘルパーや施設・病院の職員	介助は受けていない	その他	無回答	
全体	122	45.9	23.8	12.3	2.5	0.0	39.3	0.8	4.1	11.5	
住まい別	持ち家	88	46.6	26.1	14.8	2.3	0.0	29.5	1.1	4.5	13.6
	賃貸住宅・寮など	10	60.0	30.0	10.0	10.0	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0
	福祉施設	11	36.4	18.2	9.1	0.0	0.0	90.9	0.0	0.0	9.1
	病院（1年以上の長期入院）	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	グループホーム	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	20.0
	その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

住まい別に見ると、“持ち家”、“賃貸住宅・寮など”では「父母、祖父母、兄弟」が高く、“福祉施設”、“病院（1年以上の長期入院）”、“グループホーム”では「ホームヘルパーや施設・病院の職員」が7割以上で高くなっています。

(5) 介護・支援が必要な項目

問7で介護・支援を必要と「している」と答えた方にお聞きします。

問8-2 介護・支援が必要な項目は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)



介護・支援が必要な項目は、「通院」が68.9%、「外出」が66.4%、「洗濯・掃除」が63.9%と6割を超えて高く、次いで「買い物」が59.8%、「入浴」が48.4%、「薬の服用」が47.5%と続いています。

【年代別・手帳の種類別】

単位(%)		回答数 (n)	食事	トイレ	入浴	着替え	家の中の移動	薬の服用	洗濯・掃除	外出	買い物	通院	人とのコミュニケーション	その他	無回答
全体		122	40.2	33.6	48.4	41.0	15.6	47.5	63.9	66.4	59.8	68.9	40.2	12.3	4.1
年代別	19歳以下	20	45.0	45.0	55.0	40.0	5.0	65.0	65.0	85.0	65.0	85.0	60.0	10.0	0.0
	20歳代	12	41.7	41.7	50.0	41.7	25.0	50.0	50.0	75.0	58.3	66.7	66.7	16.7	0.0
	30歳代	10	50.0	30.0	30.0	40.0	10.0	50.0	50.0	60.0	60.0	70.0	70.0	0.0	10.0
	40歳代	16	43.8	18.8	31.3	43.8	0.0	43.8	62.5	50.0	62.5	62.5	50.0	12.5	0.0
	50歳代	12	25.0	25.0	41.7	25.0	16.7	33.3	50.0	50.0	58.3	50.0	25.0	25.0	0.0
	60歳代	18	38.9	22.2	44.4	22.2	16.7	27.8	66.7	77.8	66.7	72.2	22.2	11.1	11.1
	70歳以上	34	38.2	41.2	61.8	55.9	26.5	52.9	76.5	61.8	52.9	67.6	20.6	11.8	5.9
手帳の種類別	身体障害者手帳	61	39.3	39.3	57.4	50.8	29.5	44.3	72.1	70.5	62.3	75.4	21.3	11.5	3.3
	療育手帳	52	55.8	40.4	53.8	44.2	11.5	65.4	67.3	78.8	67.3	76.9	63.5	7.7	1.9
	精神障害者保健福祉手帳	14	21.4	14.3	35.7	21.4	7.1	35.7	35.7	28.6	35.7	35.7	35.7	14.3	7.1
	自立支援医療(精神通院医療)	12	25.0	8.3	8.3	8.3	8.3	33.3	41.7	33.3	33.3	41.7	25.0	25.0	8.3

年代別に見ると、10～60歳代では「外出」、「買い物」、「通院」といった移動に関する項目が高い傾向にあります。“70歳以上”では「洗濯・掃除」、「入浴」、「トイレ」といった水回りの用事に関する項目が他の年代よりも高くなっています。また、30歳代では「人とのコミュニケーション」が70.0%と他の年代よりも高くなっています。

手帳の種類別に見ると、いずれの障がい者も「通院」の割合が高くなっています。

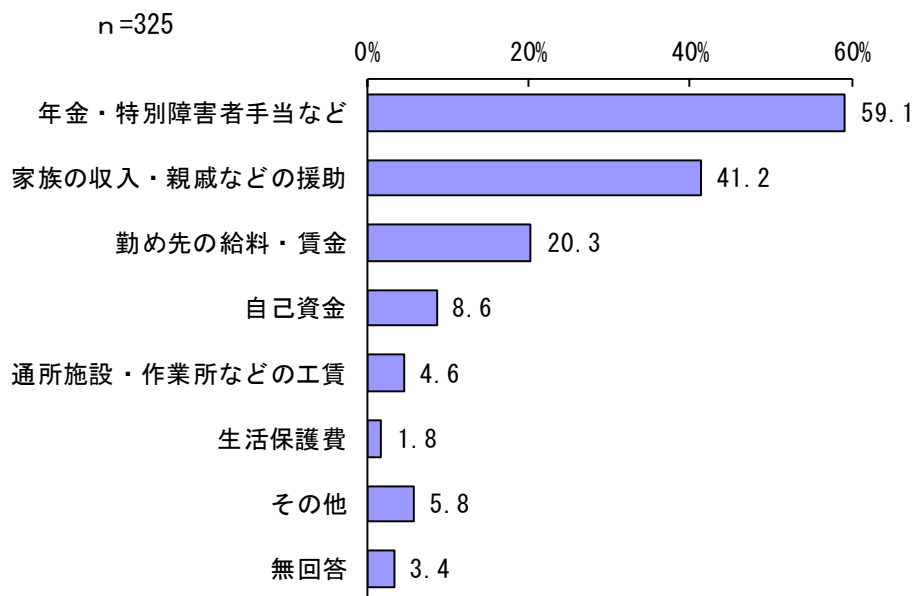
【知的障がいの種類別】

単位(%)		回答数 (n)	食事	トイレ	入浴	着替え	家の中の移動	薬の服用	洗濯・掃除	外出	買い物	通院	人とのコミュニケーション	その他	無回答
全体		52	55.8	40.4	53.8	44.2	11.5	65.4	67.3	78.8	67.3	76.9	63.5	7.7	1.9
知的障害の種類別	知的障がい	45	53.3	40.0	55.6	42.2	11.1	62.2	66.7	80.0	66.7	75.6	62.2	8.9	2.2
	発達障がい	15	20.0	26.7	33.3	20.0	0.0	46.7	46.7	73.3	60.0	60.0	80.0	20.0	0.0
	その他	3	100.0	100.0	66.7	66.7	33.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0

知的障がいの種類別に見ると、“知的障がい”では「外出」が80.0%、“発達障がい”では「人とのコミュニケーション」が80.0%とともに8割で最も高くなっています。また、“知的障がい”では「家の中の移動」以外のいずれの項目も3割以上と高く、日常生活に介護・支援が必要なことがうかがえます。

(6) 収入源

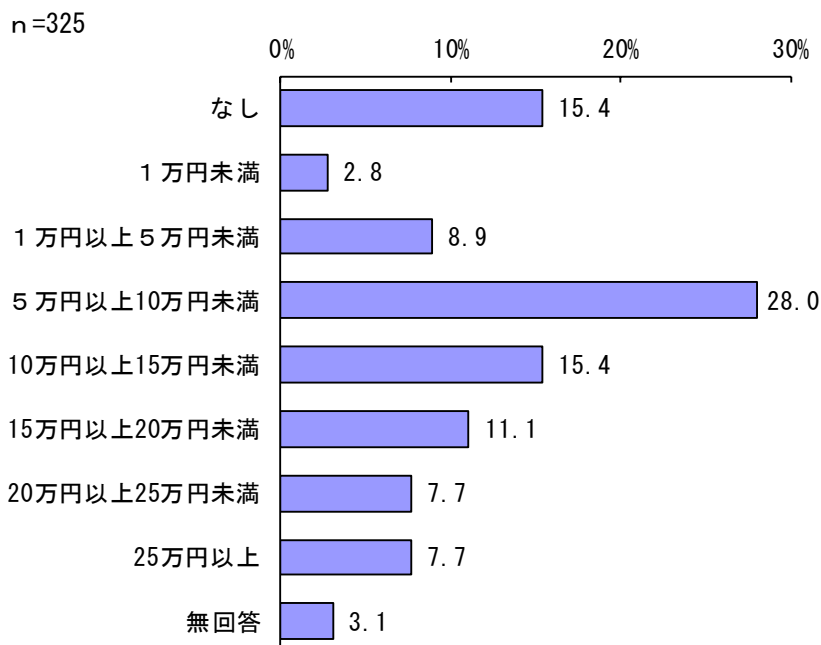
問9 あなたの生活を支えている収入は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)



生活を支えている収入源は、「年金・特別障害者手当など」が59.1%と6割近くで最も高く、次いで「家族の収入・親戚などの援助」が41.2%、「勤め先の給料・賃金」が20.3%と続いています。

(7) 1か月あたりの収入額

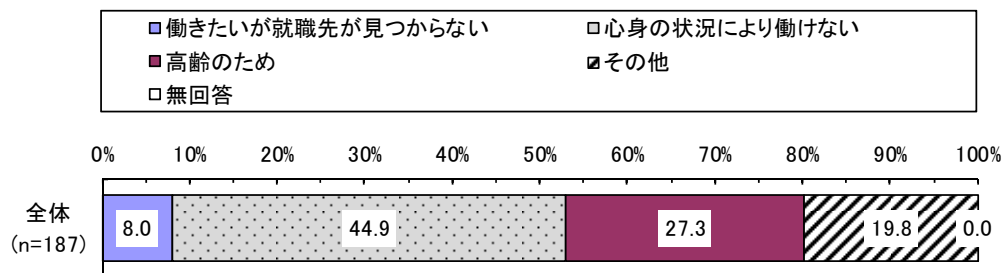
問10 あなたの1か月あたりの収入はどのくらいですか。(年金や手当を含む)(1つに○印)



1か月あたりの収入額は、「年5万円以上10万円未満」が28.0%と最も高く、次いで「なし」と「10万円以上15万円未満」がともに15.4%、「15万円以上20万円未満」が11.1%と続いています。また、『10万円未満』は55.1%と全体の半数以上を占めています。

(8) 働いていない理由

問 11 働いていない方にお聞きします。働いていない理由は何ですか。(1つに○印)

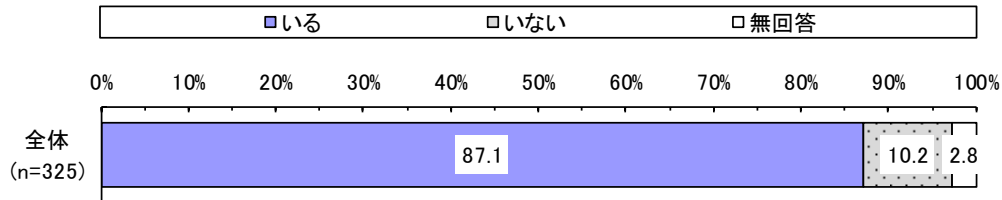


働いていない理由は、「心身の状況により働けない」が44.9%と4割半ばで最も高く、次いで「高齢のため」が27.3%、「その他」が19.8%、「働きたいが就職先が見つからない」が8.0%と続いています。

5. 健康管理や医療について

(1) かかりつけ医師の有無

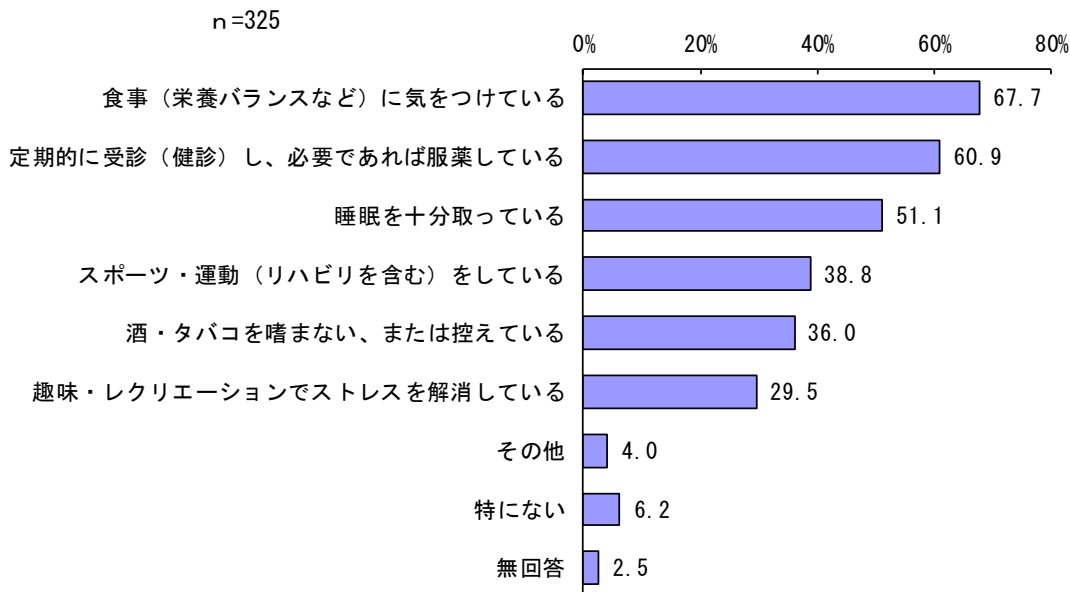
問 12 日頃より、あなた自身が治療を受けたり、健康について相談できる「かかりつけ医師」がいますか。(1つに○印)



かかりつけ医師の有無は、かかりつけ医師が「いる」が 87.1%、「いない」が 10.2%となっています。

(2) 体調維持のための配慮

問 13 あなたは、体調を維持するために、気を配っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○印)



体調維持のために気を配っていることは、「食事（栄養バランスなど）に気をつけている」が 67.7%、「定期的を受診（健診）し、必要であれば服薬している」が 60.9%と 6 割を超えて高く、次いで「睡眠を十分取っている」が 51.1%と続いています。

【年代別】

単位(%)		回答数 (n)	食事(栄養バランスなどに気をつけている)	スポーツ・運動(リハビリを含む)をしている	睡眠を十分取っている	酒・タバコを嗜まない、または控えている	定期的に受診(健診)し、必要であれば服薬している	趣味・レクリエーションでストレスを解消している	その他	特にな い	無回答
全体		325	67.7	38.8	51.1	36.0	60.9	29.5	4.0	6.2	2.5
年代別	19歳以下	33	48.5	42.4	51.5	3.0	45.5	33.3	0.0	15.2	0.0
	20歳代	24	58.3	37.5	54.2	29.2	45.8	37.5	0.0	4.2	4.2
	30歳代	26	57.7	30.8	61.5	42.3	57.7	34.6	3.8	11.5	0.0
	40歳代	47	63.8	36.2	59.6	38.3	48.9	27.7	6.4	6.4	0.0
	50歳代	48	62.5	33.3	43.8	37.5	72.9	18.8	2.1	6.3	2.1
	60歳代	59	78.0	39.0	49.2	55.9	71.2	28.8	5.1	3.4	0.0
	70歳以上	83	78.3	44.6	48.2	33.7	66.3	31.3	6.0	3.6	6.0

年代別に見ると、“19歳以下”と“30歳代”では「睡眠を十分取っている」が最も高くなっており、40歳代以下ではいずれの年代も5割を超えています。“50歳代”と“60歳代”では「定期的に受診(健診)し、必要であれば服薬している」が7割を超えて高くなっていきます。“60歳代”と“70歳以上”では「食事(栄養バランスなど)に気をつけている」が8割近くで他の年代よりも高くなっていきます。

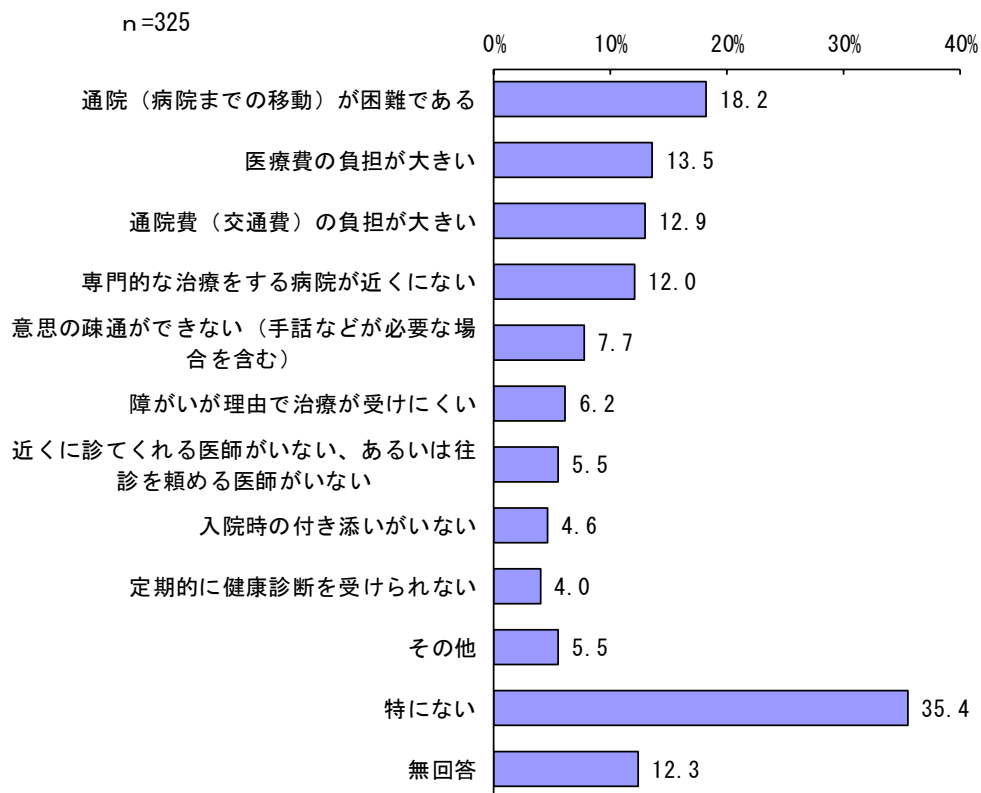
【身体障害の種類別】

単位(%)		回答数 (n)	食事(栄養バランスなどに気をつけている)	スポーツ・運動(リハビリを含む)をしている	睡眠を十分取っている	酒・タバコを嗜まない、または控えている	定期的に受診(健診)し、必要であれば服薬している	趣味・レクリエーションでストレスを解消している	その他	特にな い	無回答
全体		180	77.8	38.3	51.1	39.4	65.0	28.9	5.6	4.4	3.3
身体障害の種類別	視覚障害	5	80.0	20.0	20.0	20.0	80.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	聴覚障害・平衡機能障害	17	70.6	23.5	52.9	35.3	35.3	35.3	5.9	17.6	0.0
	音声・言語機能障害、 そしゃく機能障害	9	77.8	44.4	55.6	33.3	55.6	33.3	0.0	22.2	0.0
	肢体不自由	85	71.8	43.5	52.9	38.8	64.7	27.1	4.7	4.7	2.4
	内部障害	77	88.3	39.0	54.5	45.5	71.4	29.9	3.9	1.3	3.9

身体障害の種類別に見ると、いずれの障がいでも「食事(栄養バランスなど)に気をつけている」が7割以上で最も高くなっていきます。“視覚障害”と“内部障害”では「定期的に受診(健診)し、必要であれば服薬している」が他の障がいよりも高くなっていきます。

(3) 医療を受けるうえでの困りごと

問 14 医療を受ける上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)



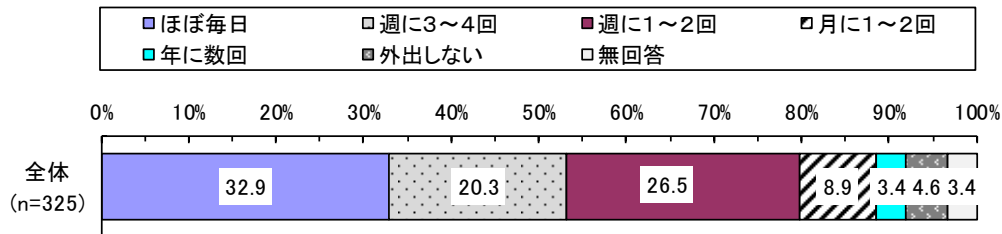
医療を受けるうえでの困りごとは、「通院（病院までの移動）が困難である」が18.2%と2割近くで最も高く、次いで「医療費の負担が大きい」が13.5%、「通院費（交通費）の負担が大きい」が12.9%、「専門的な治療をする病院が近くにない」が12.0%と続いています。

一方、「特にない」は35.4%と3割半ばに達しています。

6. 余暇や地域活動について

(1) 外出頻度

問 15 あなたの外出の頻度はどのくらいですか。(1つに○印)



外出頻度は、「ほぼ毎日」が32.9%と3割を超えて最も高く、次いで「週に1~2回」が26.5%、「週に3~4回」が20.3%と、約8割が週に1回以上外出しています。

【年代別】

	回答数 (n)	ほぼ毎日	週に3~4 回	週に1~2 回	月に1~2 回	年に数回	外出しない	無回答	
全体	325	32.9	20.3	26.5	8.9	3.4	4.6	3.4	
年代別	19歳以下	33	60.6	12.1	21.2	3.0	3.0	0.0	0.0
	20歳代	24	41.7	4.2	33.3	16.7	0.0	0.0	4.2
	30歳代	26	46.2	26.9	11.5	15.4	0.0	0.0	0.0
	40歳代	47	38.3	23.4	21.3	6.4	6.4	0.0	4.3
	50歳代	48	47.9	6.3	27.1	6.3	4.2	4.2	4.2
	60歳代	59	23.7	28.8	23.7	5.1	3.4	10.2	5.1
	70歳以上	83	9.6	27.7	34.9	13.3	3.6	8.4	2.4

年代別に見ると、50歳代以下では「ほぼ毎日」が最も高くなっており、“19歳以下”では60.6%と6割を占めています。“60歳代”では「週に3~4回」が28.8%、“70歳以上”では「週に1~2回」が34.9%で最も高くなっています。

【身体障害の種類別】

	単位(%)	回答数 (n)	ほぼ毎日	週に3~4 回	週に1~2 回	月に1~2 回	年に数回	外出しない	無回答
全体		180	30.0	21.1	27.8	8.3	3.3	6.1	3.3
身体障害の種類別	視覚障害	5	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	聴覚障害・平衡機能障害	17	41.2	17.6	29.4	5.9	5.9	0.0	0.0
	音声・言語機能障害、 そしゃく機能障害	9	22.2	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0
	肢体不自由	85	29.4	25.9	21.2	7.1	4.7	8.2	3.5
	内部障害	77	33.8	16.9	32.5	7.8	1.3	6.5	1.3

身体障害の種類別に見ると、“視覚障害”以外のいずれの障がいでも「ほぼ毎日」が最も高くなっています。“視覚障害”では「週に3~4回」と「週に1~2回」がともに40.0%となっており、毎日ではありませんが週に1回以上は外出している傾向にあります。

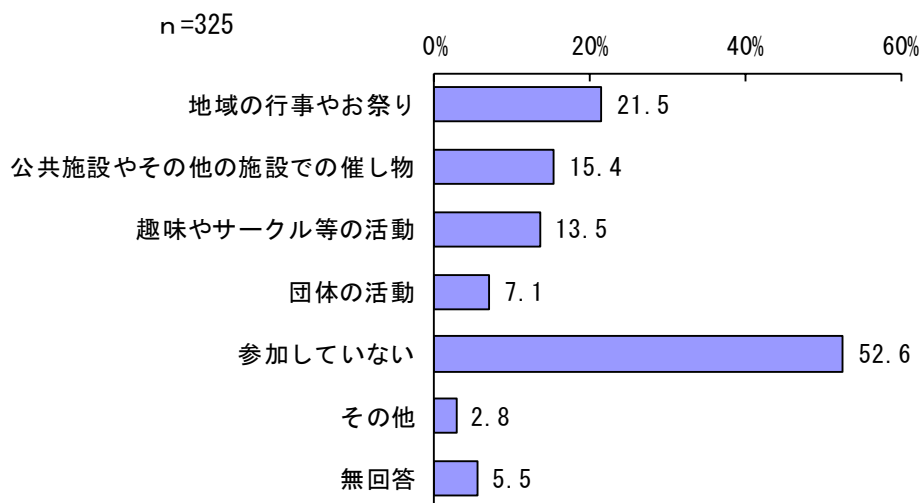
【知的障害の種類別】

	単位(%)	回答数 (n)	ほぼ毎日	週に3~4 回	週に1~2 回	月に1~2 回	年に数回	外出しない	無回答
全体		83	45.8	9.6	21.7	12.0	7.2	1.2	2.4
知的障害の種類別	知的障がい	65	41.5	9.2	23.1	13.8	7.7	1.5	3.1
	発達障がい	27	48.1	11.1	29.6	7.4	3.7	0.0	0.0
	その他	4	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

知的障害の種類別に見ると、いずれの障がいでも「ほぼ毎日」が4割以上で最も高くなっています。また、“発達障がい”の方が“知的障がい”よりも外出の頻度が高い傾向にあります。

(2) 地域行事・活動の参加状況

問 16 あなたは、この1年間地域での行事や活動に参加したことがありますか。(当てはまるものすべてに○印)



参加している地域行事・活動は、「地域の行事やお祭り」が21.5%と2割を超えて最も高く、次いで「公共施設やその他の施設での催し物」が15.4%、「趣味やサークル等の活動」が13.5%と続いています。

一方、「参加していない」は52.6%と5割を超えています。

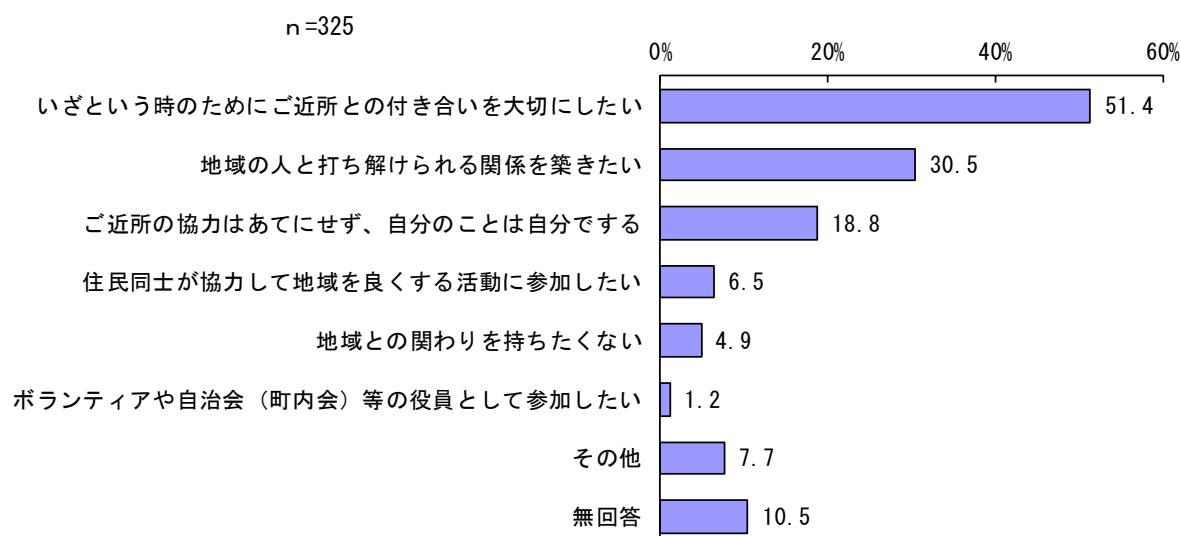
【手帳の種類別】

単位 (%)	回答数 (n)	地域の行事やお祭り	公共施設やその他の施設での催し物	趣味やサークル等の活動	団体の活動	参加していない	その他	無回答
全体	325	21.5	15.4	13.5	7.1	52.6	2.8	5.5
手帳の種類別								
身体障害者手帳	180	20.0	11.7	14.4	7.2	56.1	1.7	7.8
療育手帳	83	30.1	31.3	7.2	8.4	38.6	4.8	3.6
精神障害者保健福祉手帳	39	12.8	10.3	10.3	2.6	69.2	2.6	2.6
自立支援医療(精神通院医療)	55	12.7	3.6	18.2	5.5	60.0	3.6	3.6

手帳の種類別に見ると、いずれの手帳の種類でも「参加していない」が最も高くなっています。“療育手帳”では、「地域の行事やお祭り」や「公共施設やその他の施設での催し物」といったイベントの参加が3割に達しており、他の手帳所持者よりも高くなっています。

(3) 地域とのかかわり

問 17 あなたは、地域との関わりに対してどのようにお考えですか。(2つ以内に○印)



地域とのかかわりについて考えていることは、「いざという時のためにご近所との付き合いを大切にしたい」が51.4%と5割を超えて最も高く、次いで「地域の人と打ち解けられる関係を築きたい」が30.5%、「ご近所の協力はあてにせず、自分のことは自分です」が18.8%と続いています。

【手帳の種類別】

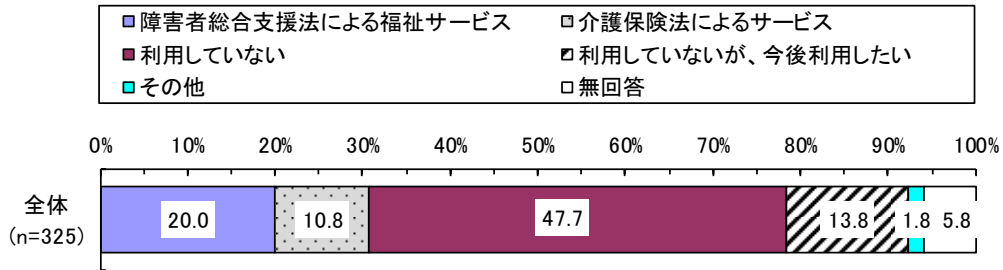
手帳の種類別	単位(%)	回答数(n)	地域の人と打ち解けられる関係を築きたい	いざという時のためにご近所との付き合いを大切にしたい	住民同士が協力して地域を良くする活動に参加したい	ボランティアや自治会(町内会)等の役員として参加したい	ご近所の協力はあてにせず、自分のことは自分です	地域との関わりを持ちたくない	その他	無回答
全体		325	30.5	51.4	6.5	1.2	18.8	4.9	7.7	10.5
身体障害者手帳		180	34.4	58.3	6.1	1.7	16.1	2.2	6.7	9.4
療育手帳		83	30.1	47.0	7.2	0.0	21.7	2.4	8.4	9.6
精神障害者保健福祉手帳		39	20.5	30.8	2.6	2.6	20.5	15.4	12.8	15.4
自立支援医療(精神通院医療)		55	27.3	41.8	7.3	1.8	21.8	10.9	10.9	10.9

手帳の種類別に見ると、いずれの手帳の種類でも「いざという時のためにご近所との付き合いを大切にしたい」が最も高く、特に“身体障害者手帳”では58.3%と6割近くになっています。また、“身体障害者手帳”と“療育手帳”では、「地域の人と打ち解けられる関係を築きたい」が3割を超えて高くなっていますが、“精神障害者保健福祉手帳”と“自立支援医療(精神通院医療)”では「地域との関わりを持ちたくない」が1割を超えて高くなっています。

7. 福祉サービス等の利用状況・希望について

(1) 福祉サービス等の利用状況

問 18 あなたは、福祉サービス等を利用していますか。(1つに○印)



福祉サービス等の利用状況は、「利用していない」が47.7%と4割半ばを超えて最も高く、「利用していないが、今後利用したい」の13.8%と合わせると、全体の6割以上が福祉サービスを利用していません。「障害者総合支援法による福祉サービス」は20.0%、「介護保険法によるサービス」は10.8%となっています。

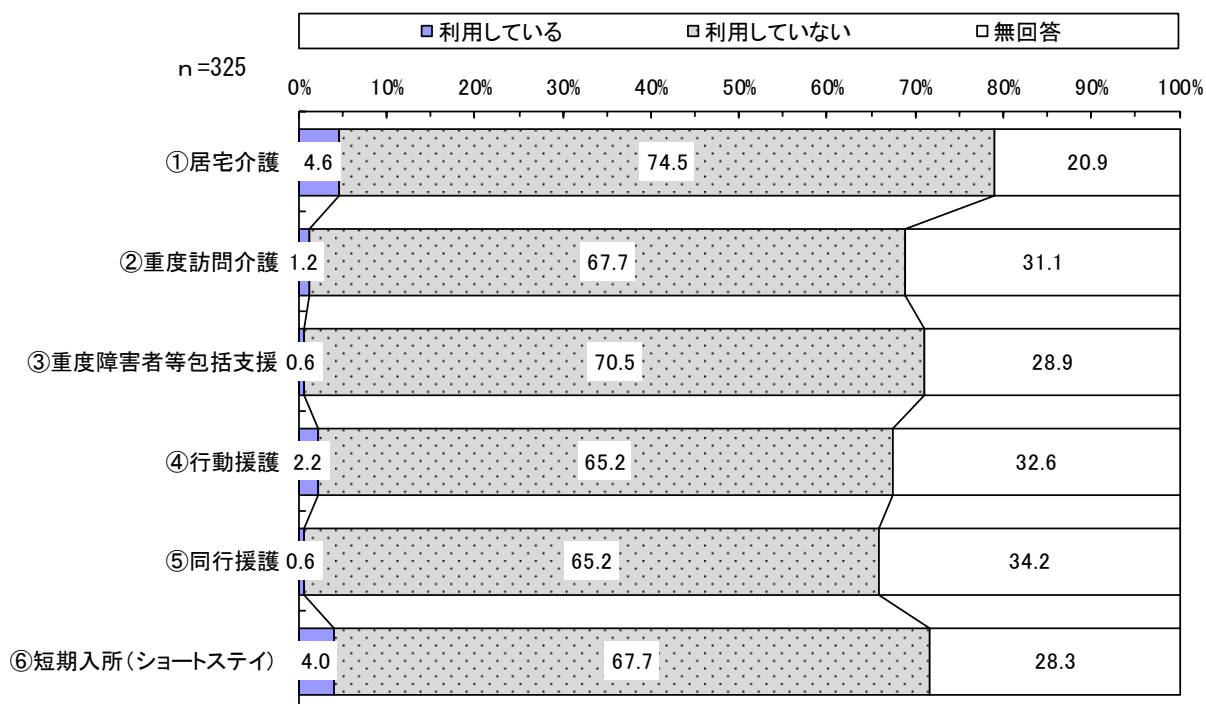
【手帳の種類別】

手帳の種類別	回答数 (n)	障害者総合支援法による福祉サービス (%)	介護保険法によるサービス (%)	利用していない (%)	利用していないが、今後利用したい (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	325	20.0	10.8	47.7	13.8	1.8	5.8
身体障害者手帳	180	10.0	15.0	55.0	11.1	1.1	7.8
療育手帳	83	53.0	4.8	25.3	13.3	2.4	1.2
精神障害者保健福祉手帳	39	20.5	5.1	41.0	20.5	5.1	7.7
自立支援医療(精神通院医療)	55	14.5	5.5	49.1	23.6	1.8	5.5

手帳の種類別に見ると、“療育手帳”では「障害者総合支援法による福祉サービス」が53.0%と5割を超えて他の手帳所持者よりも突出して高くなっています。それ以外の手帳所持者では「利用していない」が最も高くなっています。また、“身体障害者手帳”では「介護保険法によるサービス」が15.0%と1割半ばで他の手帳所持者よりも突出して高くなっています。“精神障害者保健福祉手帳”と“自立支援医療(精神通院医療)”では「利用していないが、今後利用したい」が2割を超えて高くなっています。

問 19 あなたが現在利用している「障がい福祉サービス」についてお聞きします。利用していない場合は、今後利用したいかをお聞きします。

(2) 訪問系サービスの利用状況



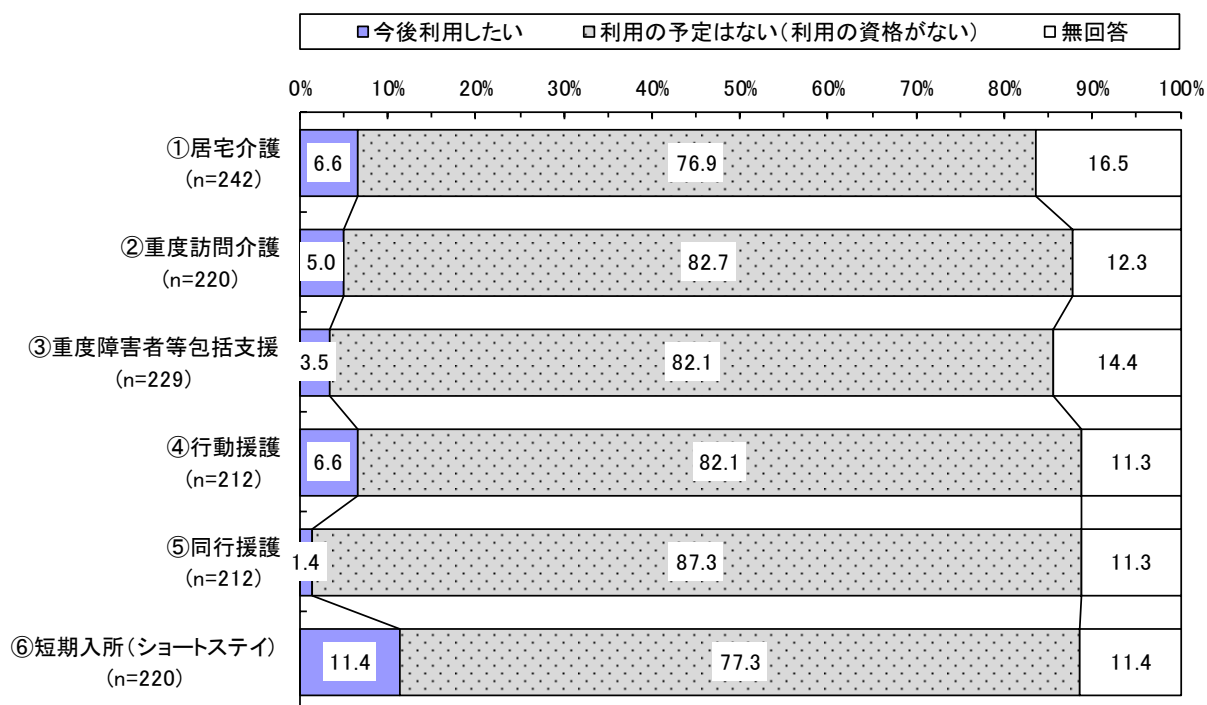
訪問系サービスの利用状況は、「利用している」では、①居宅介護が4.6%、⑥短期入所（ショートステイ）が4.0%とやや高く、④行動援護が2.2%、②重度訪問介護が1.2%となっています。「利用していない」はいずれの訪問系サービスでも、6割半ばから7割半ばを占めています。

(3) 訪問系サービスの利用回数

訪問系サービスの週あたりの利用回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①居宅介護	②重度訪問介護	③重度障害者等包括支援	④行動援護	⑤同行援護	⑥短期入所(ショートステイ)
週1回	3人	—	1人	1人	1人	2人
週2回	2人	—	—	2人	1人	1人
週3回	2人	—	—	—	—	—
週4回	—	—	—	—	—	1人
週5回	2人	—	—	—	—	—
週6回	1人	—	—	—	—	—
週7回	—	—	—	—	—	—

(4) 訪問系サービスの利用意向



訪問系サービスの今後の利用意向は、「今後利用したい」では、⑥短期入所(ショートステイ)が11.4%と1割を超えて高く、①居宅介護と④行動援護はともに6.6%、②重度訪問介護は5.0%となっています。

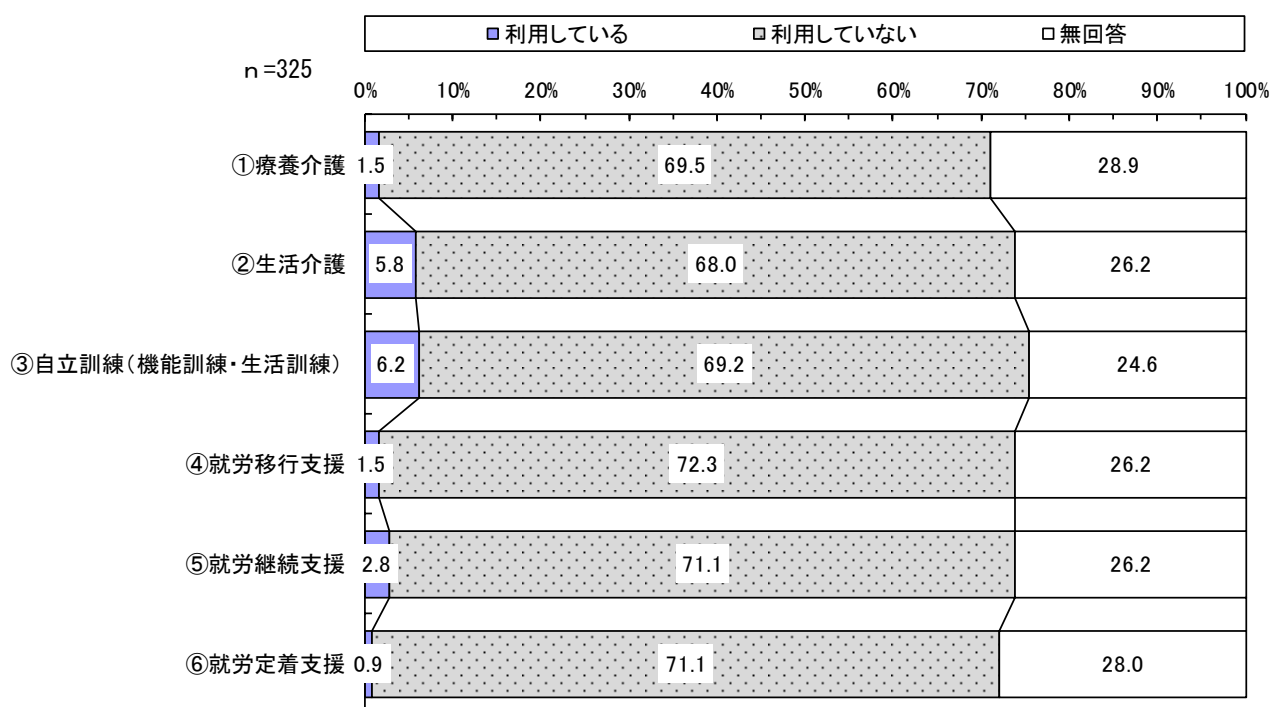
「利用の予定はない(利用の資格がない)」は、①居宅介護と⑥短期入所(ショートステイ)以外のいずれの訪問系サービスでも8割を超えています。

(5) 訪問系サービスの利用回数意向

訪問系サービスの週あたりの利用したい回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①居宅介護	②重度訪問介護	③重度障害者等包括支援	④行動援護	⑤同行援護	⑥短期入所(ショートステイ)
週1回	2人	3人	1人	4人	1人	6人
週2回	1人	1人	—	2人	—	—
週3回	2人	1人	2人	2人	—	2人
週4回	—	—	1人	—	—	—
週5回	—	1人	—	—	—	—
週6回	—	—	—	—	—	—
週7回	—	—	—	—	—	—

(6) 日中活動系サービスの利用状況



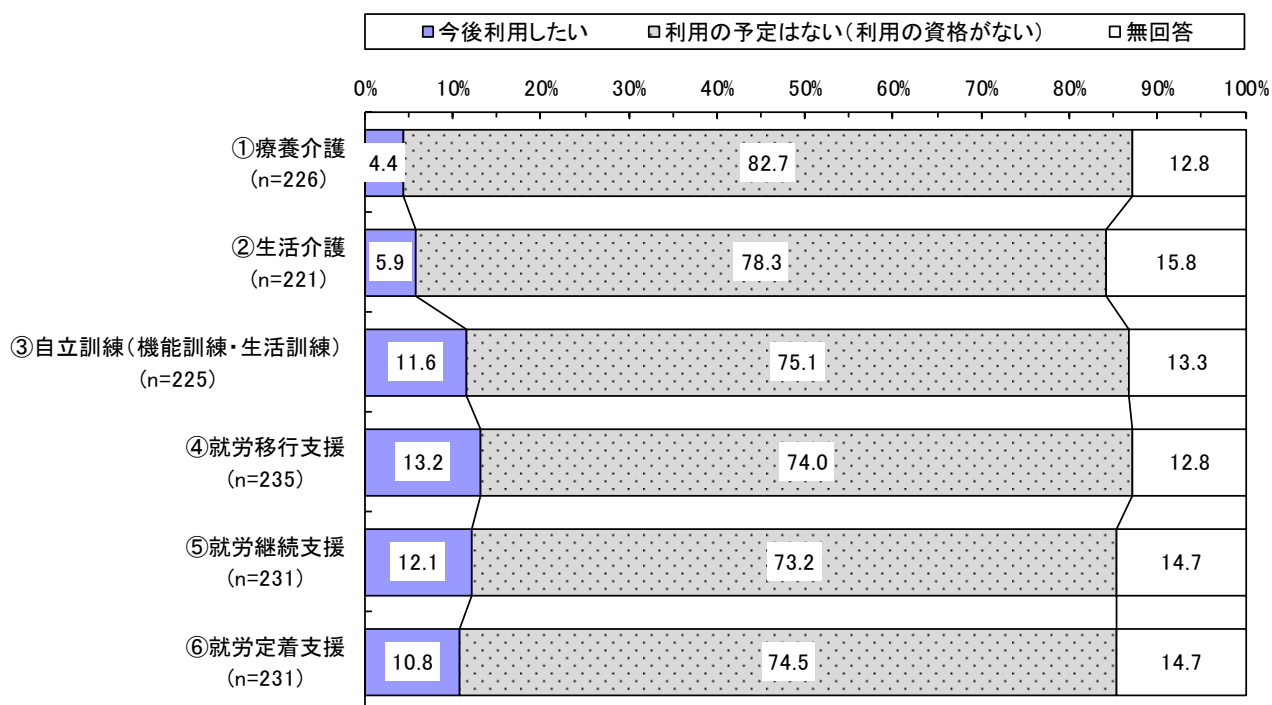
日中活動系サービスの利用状況は、「利用している」では、③自立訓練(機能訓練・生活訓練)が6.2%、②生活介護が5.8%と他の日中活動系サービスより高くなっています。「利用していない」はいずれの訪問系サービスでも、7割前後を占めています。

(7) 日中活動系サービスの利用回数

日中活動系サービスの週あたりの利用回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①療養介護	②生活介護	③自立訓練 (機能訓練 ・生活訓練)	④就労移行 支援	⑤就労継続 支援	⑥就労定着 支援
週1回	1人	1人	4人	—	1人	1人
週2回	2人	1人	3人	1人	—	—
週3回	1人	—	1人	1人	—	—
週4回	—	—	—	1人	—	—
週5回	1人	2人	2人	1人	5人	1人
週6回	—	—	—	—	—	—
週7回	—	—	—	—	—	—

(8) 日中活動系サービスの利用意向



日中活動系サービスの今後の利用意向は、「今後利用したい」では、④就労移行支援が13.2%、⑤就労継続支援が12.1%、③自立訓練（機能訓練・生活訓練）が11.6%、⑥就労定着支援が10.8%と1割を超えており、②生活介護は5.9%、①療養介護は4.4%となっています。

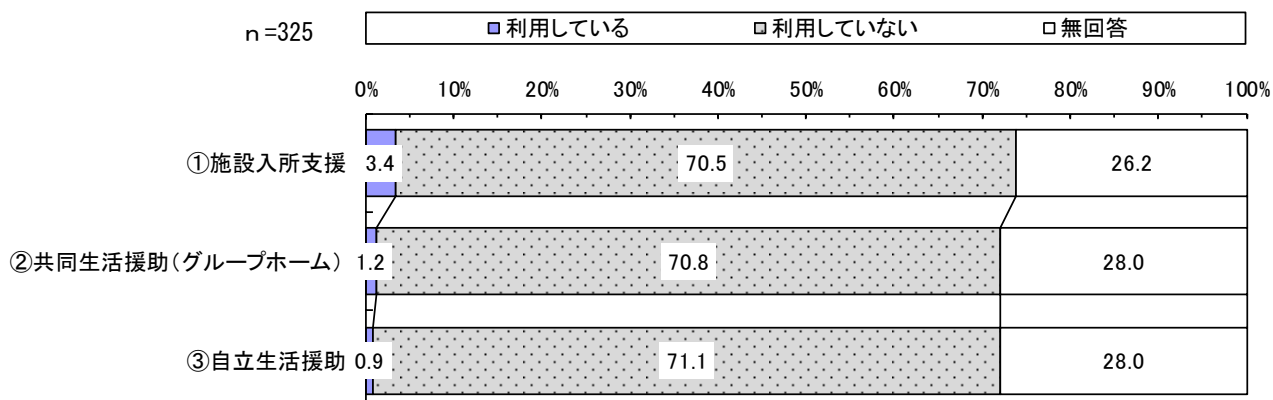
「利用の予定はない（利用の資格がない）」は、①療養介護が82.7%と8割を超えており、それ以外の日中活動系サービスでは7割台となっています。

(9) 日中活動系サービスの利用回数意向

日中活動系サービスの週あたりの利用したい回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①療養介護	②生活介護	③自立訓練 (機能訓練 ・生活訓練)	④就労移行 支援	⑤就労継続 支援	⑥就労定着 支援
週1回	2人	3人	1人	4人	1人	6人
週2回	1人	1人	—	2人	—	—
週3回	2人	1人	2人	2人	—	2人
週4回	—	—	1人	—	—	—
週5回	—	1人	—	—	—	—
週6回	—	—	—	—	—	—
週7回	—	—	—	—	—	—

(10) 居住系サービスの利用状況



居住系サービスの利用状況は、「利用している」では、①施設入所支援が3.4%、②共同生活援助（グループホーム）が1.2%、③自立生活援助が0.9%となっています。

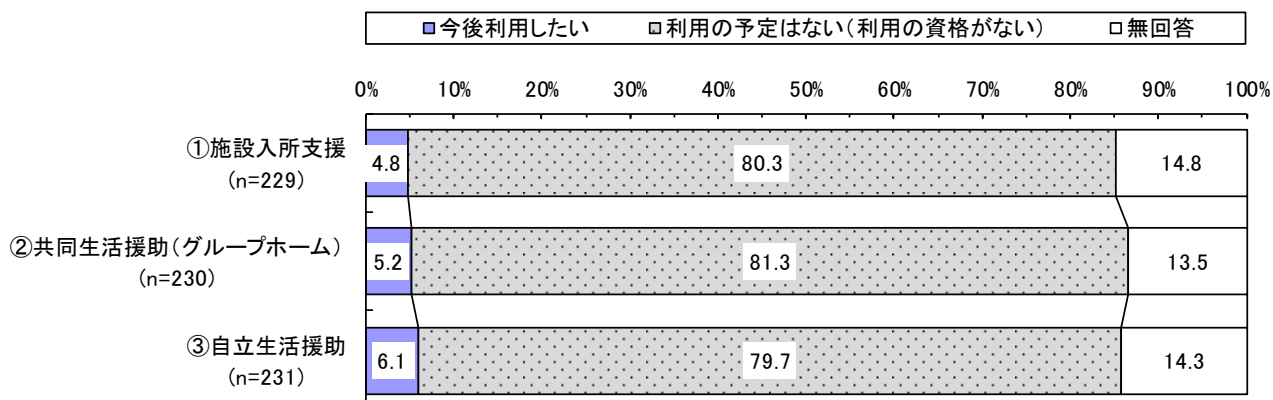
「利用していない」はいずれの居住系サービスでも、7割強を占めています。

(11) 居住系サービスの利用回数

居住系サービスの週あたりの利用回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①施設入所支援	②共同生活援助(グループホーム)	③自立生活援助
週1回	1人	—	—
週2回	—	—	—
週3回	—	—	—
週4回	—	—	—
週5回	—	—	—
週6回	—	—	—
週7回	3人	2人	—

(12) 居住系サービスの利用意向



居住系サービスの今後の利用意向は、「今後利用したい」では、③自立生活援助が 6.1%、②共同生活援助（グループホーム）が 5.2%、①施設入所支援が 4.8%で 5%前後となっています。

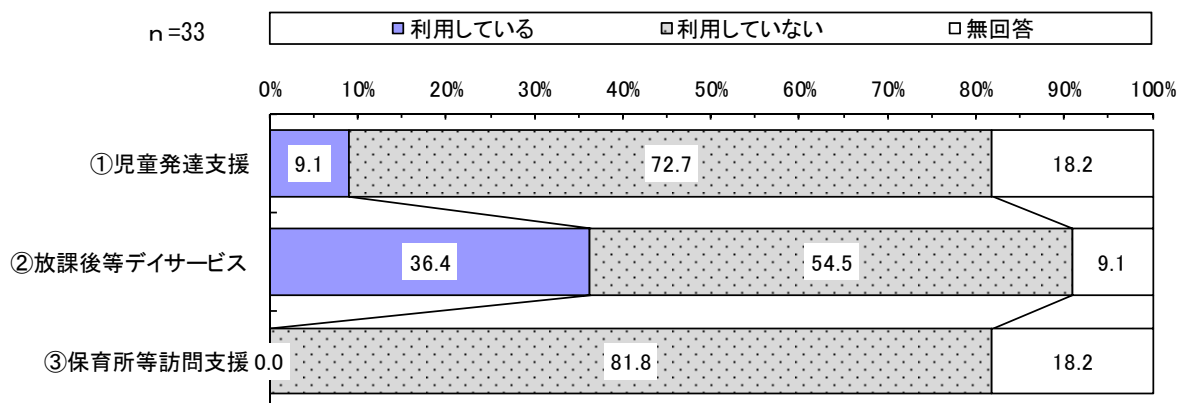
「利用の予定はない（利用の資格がない）」は、いずれの居住系サービスも 8割前後となっています。

(13) 居住系サービスの利用回数意向

居住系サービスの週あたりの利用したい回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①施設入所支援	②共同生活援助(グループホーム)	③自立生活援助
週1回	2人	1人	3人
週2回	—	—	3人
週3回	2人	—	2人
週4回	—	—	—
週5回	—	1人	1人
週6回	—	—	—
週7回	—	1人	—

(14) 児童系サービスの利用状況



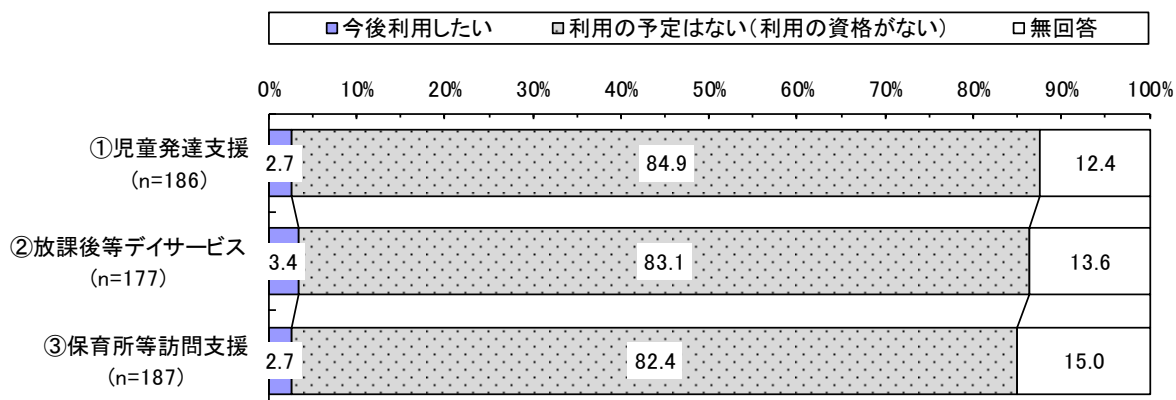
児童系サービスの利用状況は、「利用している」では、②放課後等デイサービスが36.4%と3割半ばを超えて他の児童系サービスよりも突出して高く、①児童発達支援が9.1%となっています。「利用していない」は、③保育所等訪問支援が8割、①児童発達支援が7割を超えています。

(15) 児童系サービスの利用回数

児童系サービスの週あたりの利用回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①児童発達支援	②放課後等デイサービス	③保育所等訪問支援
週1回	2人	1人	—
週2回	1人	2人	—
週3回	—	2人	—
週4回	—	3人	—
週5回	1人	—	—
週6回	—	—	—
週7回	—	—	—

(16) 児童系サービスの利用意向



児童系サービスの今後の利用意向は、「今後利用したい」では、②放課後等デイサービスが 3.4%、①児童発達支援と③保育所等訪問支援がともに 2.7%で 3%前後を占めています。

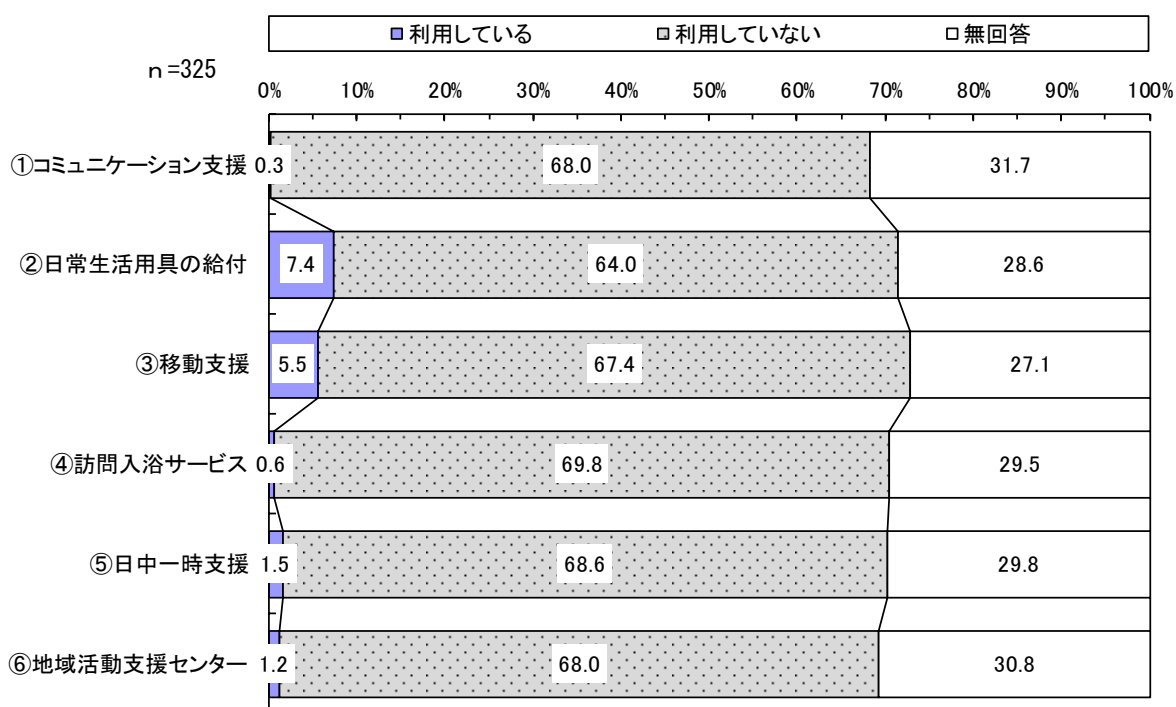
「利用の予定はない (利用の資格がない)」は、いずれの児童系サービスも 8 割を超えています。

(17) 児童系サービスの利用回数意向

児童系サービスの週あたりの利用したい回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①児童発達支援	②放課後等デイサービス	③保育所等訪問支援
週 1 回	1 人	—	—
週 2 回	1 人	1 人	1 人
週 3 回	—	3 人	—
週 4 回	—	2 人	—
週 5 回	—	—	—
週 6 回	—	—	—
週 7 回	—	—	—

(18) 地域生活支援事業によるサービスの利用状況



地域生活支援事業によるサービスの利用状況は、「利用している」では、②日常生活用具の給付が7.4%、③移動支援が5.5%と他のサービスより高くなっています。

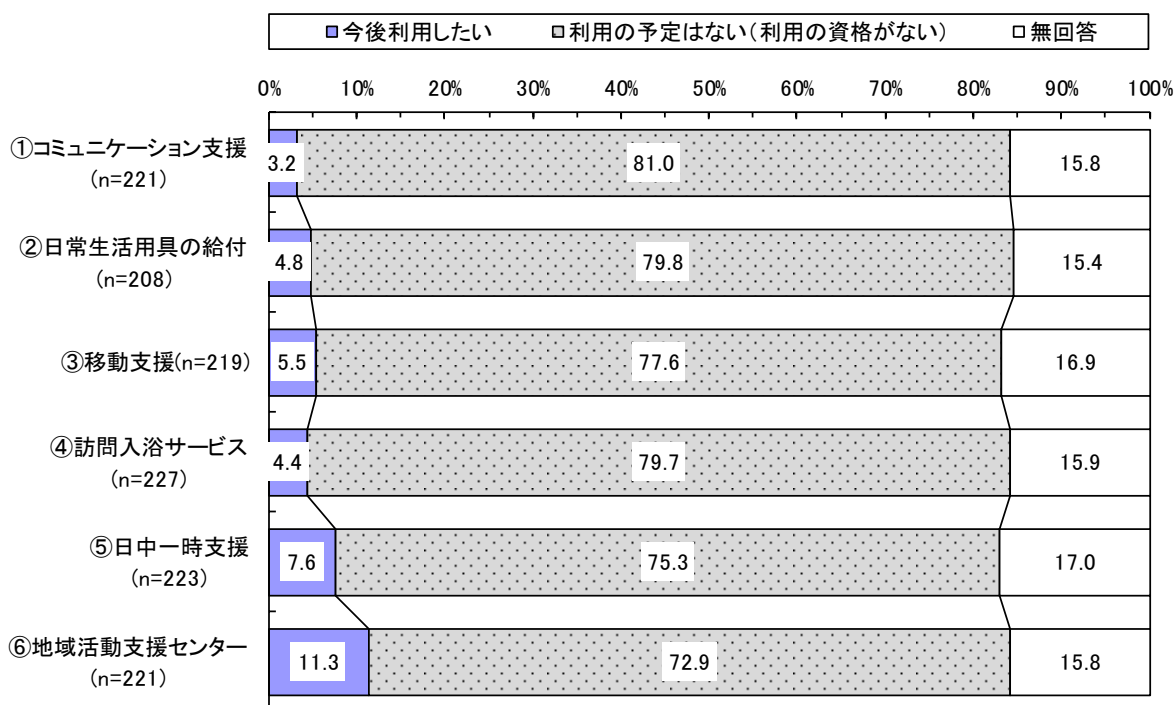
「利用していない」はいずれの地域生活支援事業によるサービスでも、6割台となっています。

(19) 地域生活支援事業によるサービスの利用回数

地域生活支援事業によるサービスの週あたりの利用回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①コミュニケーション支援	②日常生活用具の給付	③移動支援	④訪問入浴サービス	⑤日中一時支援	⑥地域活動支援センター
週1回	—	—	3人	1人	2人	—
週2回	—	—	1人	—	—	—
週3回	—	—	—	—	—	—
週4回	—	—	—	—	—	—
週5回	—	—	—	—	—	1人
週6回	—	—	—	—	—	—
週7回	—	3人	—	—	—	—

(20) 地域生活支援事業によるサービスの利用意向



地域生活支援事業によるサービスの今後の利用意向は、「今後利用したい」では、⑥地域活動支援センターが11.3%と1割を超えて高く、⑤日中一時支援が7.6%、③移動支援が5.5%となっています。「利用の予定はない(利用の資格がない)」は①コミュニケーション支援が81.0%と8割を超えており、それ以外のいずれの地域生活支援事業によるサービスは7割台となっています。

(21) 地域生活支援事業によるサービスの利用回数意向

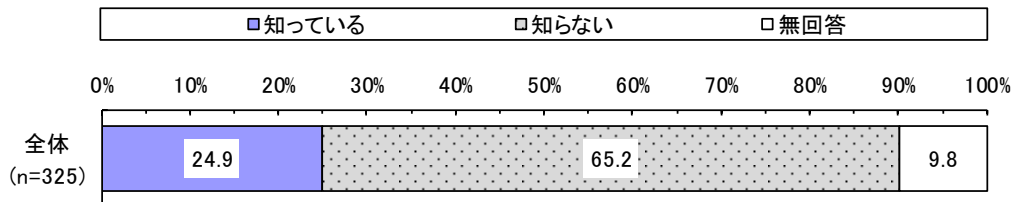
地域生活支援事業によるサービスの週あたりの利用したい回数と回答人数は下表の通りです。

利用回数	①コミュニケーション支援	②日常生活用具の給付	③移動支援	④訪問入浴サービス	⑤日中一時支援	⑥地域活動支援センター
週1回	1人	2人	5人	1人	5人	6人
週2回	1人	—	1人	—	1人	3人
週3回	1人	—	—	1人	3人	—
週4回	—	—	—	—	1人	—
週5回	—	—	—	—	—	—
週6回	—	—	—	—	—	—
週7回	—	—	—	—	—	—

8. 災害対策等について

(1) 「避難行動要支援者登録申請」の認知状況

問 20 大磯町では、避難行動要支援者（ひとり暮らし高齢者、障がい者）の避難行動支援に関する全体計画に基づき、「避難行動要支援者登録申請」の受付を行っています。あなたはこの制度を知っていますか。（1つに○印）

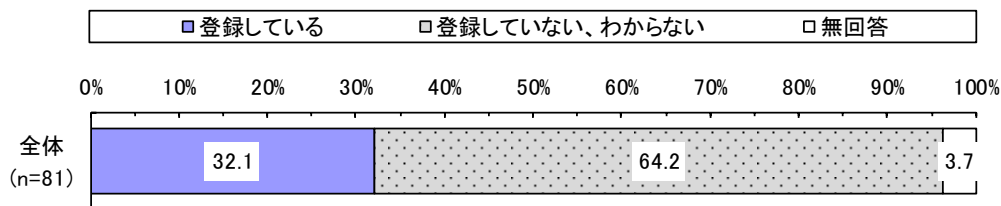


「避難行動要支援者登録申請」の認知状況は、避難行動要支援者登録を「知っている」が24.9%と全体の4分の1を占めており、「知らない」が65.2%となっています。

(2) 「避難行動要支援者登録」の有無

問 20 で「知っている」と答えた方にお聞きします。

問 21 あなたは、「避難行動要支援者」に登録されていますか。（1つに○印）

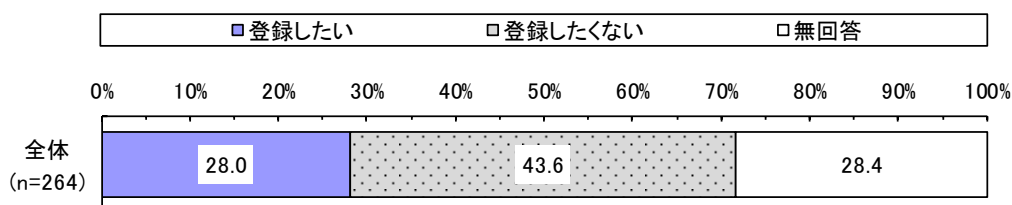


「避難行動要支援者登録」の有無は、「登録している」が32.1%と3割を超えており、「登録していない、わからない」が64.2%となっています。

(3) 「避難行動要支援者登録」の意向

問 20 で「知らない」、問 21 で「登録していない、わからない」と答えた方にお聞きします。

問 22 今後、「避難行動要支援者」に登録したいと思いますか。（1つに○印）



「避難行動要支援者登録」の意向は、「登録したい」が28.0%と3割近くを占めており、「登録したくない」が43.6%となっています。

【年代別・手帳の種類別】

単位(%)		回答数 (n)	登録したい	登録したくない	無回答
全体		264	28.0	43.6	28.4
年代別	19歳以下	29	37.9	37.9	24.1
	20歳代	19	36.8	47.4	15.8
	30歳代	24	25.0	45.8	29.2
	40歳代	37	24.3	43.2	32.4
	50歳代	42	19.0	61.9	19.0
	60歳代	47	17.0	42.6	40.4
	70歳以上	63	39.7	33.3	27.0
手帳の種類別	身体障害者手帳	138	30.4	40.6	29.0
	療育手帳	69	40.6	36.2	23.2
	精神障害者保健福祉手帳	33	18.2	54.5	27.3
	自立支援医療(精神通院医療)	47	12.8	55.3	31.9

年代別に見ると、“19歳以下”では、「登録したい」と「登録したくない」がともに37.9%と同じ割合になっています。“70歳以上”では「登録したい」が39.7%と4割近くで最も高くなっています。また、“70歳以上”以外では年代が上がるにつれて「登録したい」割合が低くなる傾向にあります。

手帳の種類別に見ると、“療育手帳”では「登録したい」が40.6%と4割で最も高くなっています。それ以外の手帳所持者では「登録したくない」が「登録したい」を上回っていますが、特に“精神障害者保健福祉手帳”と“自立支援医療(精神通院医療)”では5割を超えており、名簿に登録することへの抵抗感がうかがえます。

【介護保険の認定別】

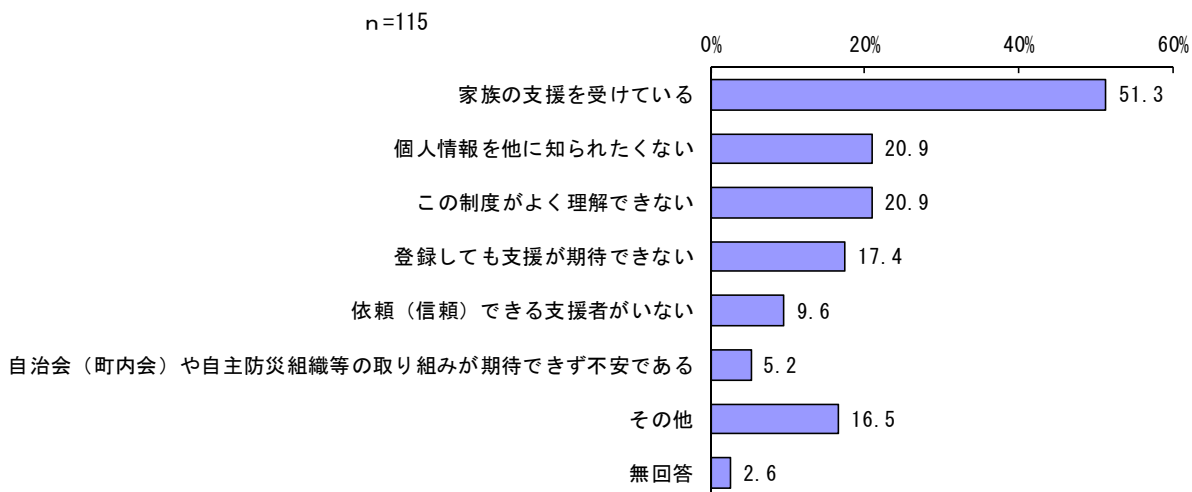
単位(%)		回答数 (n)	登録したい	登録したくない	無回答
全体		264	28.0	43.6	28.4
介護保険の認定別	現在、介護認定を受けている	36	36.1	36.1	27.8
	今後、介護保険を利用したい、または、現在申請中である	25	44.0	24.0	32.0
	介護保険の必要性を感じていない	101	16.8	57.4	25.7

介護保険の認定別に見ると、“現在、介護認定を受けている”では「登録したい」と「登録したくない」がともに36.1%と同じ割合になっています。また、“今後、介護保険を利用したい、または、現在申請中である”では「登録したい」が44.0%、“介護保険の必要性を感じていない”では「登録したくない」が57.4%と高くなっています。

(4)「避難行動要支援者登録」をしたくない理由

問 22 で「登録したくない」と答えた方にお聞きします。

問 23 その理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○印)



「避難行動要支援者登録」をしたくない理由は、「家族の支援を受けている」が51.3%と5割を超えて最も高く、次いで「個人情報を他に知られたくない」と「この制度がよく理解できない」がともに20.9%、「登録しても支援が期待できない」が17.4%と続いています。

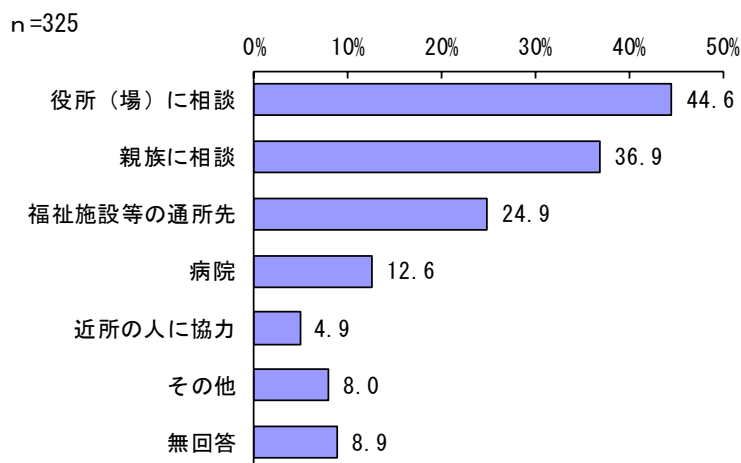
【知的障害の種類別】

単位 (%)		回答数 (n)	登録しても支援が期待できない	家族の支援を受けている	個人情報を他に知られたくない	依頼(信頼)できる支援者がいない	自治会(町内会)や自主防災組織等の取り組みが期待できず不安である	この制度がよく理解できない	その他	無回答
全体		25	8.0	56.0	24.0	8.0	12.0	24.0	8.0	4.0
知的障害の種類別	知的障がい	19	10.5	52.6	26.3	10.5	15.8	21.1	5.3	5.3
	発達障がい	5	0.0	80.0	40.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	その他	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0

知的障がいの種類別に見ると、“知的障がい”と“発達障がい”ともに「家族の支援を受けている」が最も高くなっています。また、“知的障がい”では「登録しても支援が期待できない」が“発達障がい”を上回っており、それ以外の項目はいずれも“発達障がい”が“知的障がい”を上回っています。

(5) 家族の支援受けられなくなった場合の対処

問 24 あなたは、家族の支援が受けられなくなった場合、どう対処されますか。(2つ以内に○印)



家族の支援受けられなくなった場合の対処は、「役所(場)に相談」が44.6%と4割半ば近くで最も高く、次いで「親族に相談」が36.9%、「福祉施設等の通所先」が24.9%と続いています。

【手帳の種類別】

単位 (%)	回答数 (n)	親族に相談	近所の人に協力	福祉施設等の通所先	病院	役所(場)に相談	その他	無回答
全体	325	36.9	4.9	24.9	12.6	44.6	8.0	8.9
手帳の種類別								
身体障害者手帳	180	36.7	7.2	19.4	15.6	46.7	7.2	9.4
療育手帳	83	33.7	2.4	54.2	2.4	44.6	7.2	6.0
精神障害者保健福祉手帳	39	43.6	2.6	15.4	15.4	46.2	5.1	7.7
自立支援医療(精神通院医療)	55	32.7	1.8	12.7	20.0	50.9	12.7	10.9

手帳の種類別に見ると、“療育手帳”では「福祉施設等の通所先」が54.2%と5割半ば近くで他の手帳所持者よりも突出して高くなっています。また、いずれの手帳所持者でも「役所(場)に相談」が4割以上で高くなっています。“精神障害者保健福祉手帳”では「親族に相談」が43.6%と他の手帳所持者よりも高くなっています。

【同居人別】

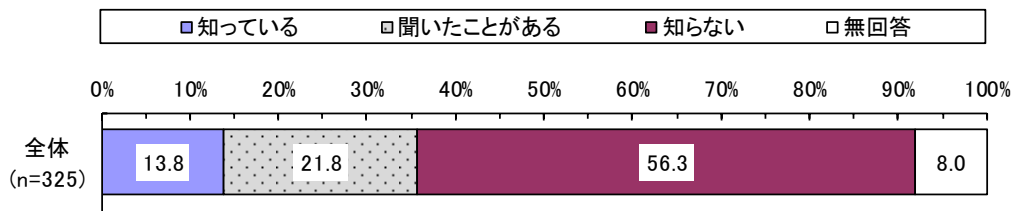
単位(%)	回答数 (n)	親族に相 談	近所の人 に協力	福祉施設等 の通所先	病院	役所(場) に相談	その他	無回答	
全体	325	36.9	4.9	24.9	12.6	44.6	8.0	8.9	
同居人別	父母、祖父母、兄弟	132	40.9	4.5	33.3	9.8	48.5	6.1	5.3
	配偶者	128	40.6	4.7	18.0	14.1	45.3	7.0	10.2
	子ども	61	36.1	4.9	19.7	18.0	45.9	4.9	11.5
	その他親族	5	40.0	0.0	40.0	20.0	60.0	0.0	0.0
	一人で暮らしている	30	30.0	6.7	13.3	16.7	46.7	10.0	6.7
	施設・寮などで共同生活	18	5.6	0.0	38.9	0.0	11.1	27.8	27.8
	病院に入院	4	75.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	その他	3	66.7	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0

同居人別に見ると、“施設・寮などで共同生活”では「福祉施設等の通所先」が38.9%、“病院に入院”では「親族に相談」が75.1%と最も高く、それ以外では「役所(場)に相談」が最も高くなっています。

9. 障がいのある方の権利擁護について

(1) 「障害者差別解消法」の認知状況

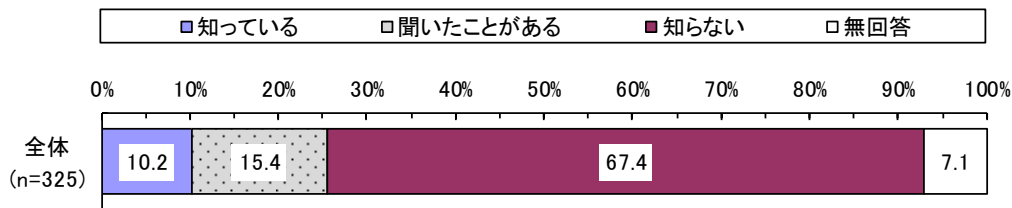
問 25 あなたは、「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○印)



「障害者差別解消法」の認知状況は、「知っている」が13.8%、「聞いたことがある」が21.8%となっており、「知らない」は56.3%と5割半ばを超えています。

(2) 「合理的配慮」の認知状況

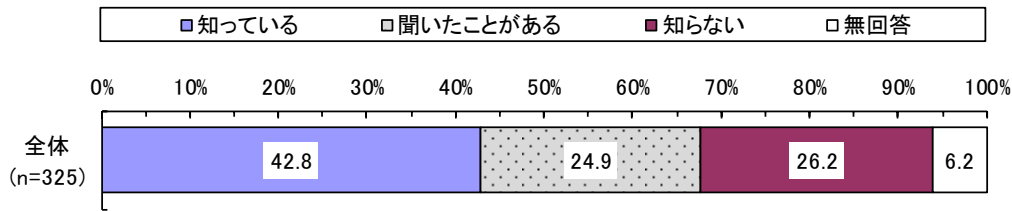
問 26 あなたは、障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。(1つに○印)



「合理的配慮」の認知状況は、「知っている」が10.2%、「聞いたことがある」が15.4%となっており、「知らない」は67.4%と6割半ばを超えています。

(3) 「成年後見制度」の認知状況

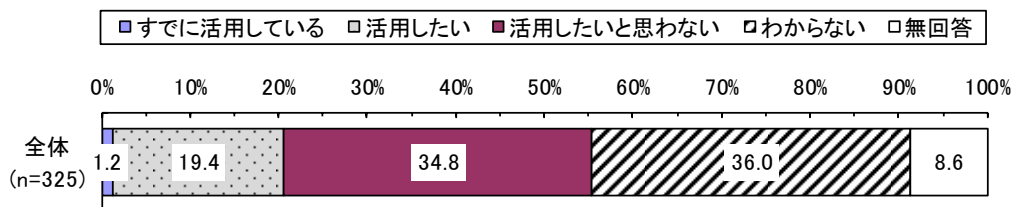
問 27 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○印)



「成年後見制度」の認知状況は、「知っている」が42.8%と4割を超えて最も高く、「聞いたことがある」が24.9%と、「知らない」が26.2%と2割半ば前後を占めています。

(4) 「成年後見制度」の活用意向

問 28 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。(1つに○印)

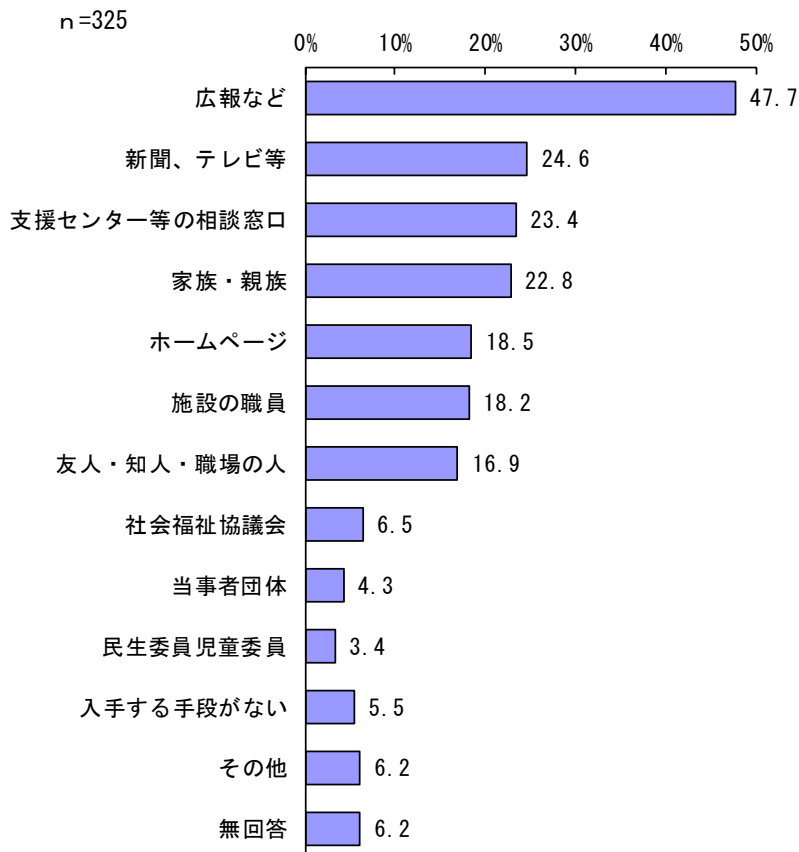


「成年後見制度」の活用意向は、「活用したいと思わない」が34.8%、「わからない」が36.0%とともに3割半ば前後で高く、「活用したい」が19.4%と2割近くを占めています。一方、「すでに活用している」は1.2%にとどまっています。

10. 情報・相談等について

(1) 情報の入手手段

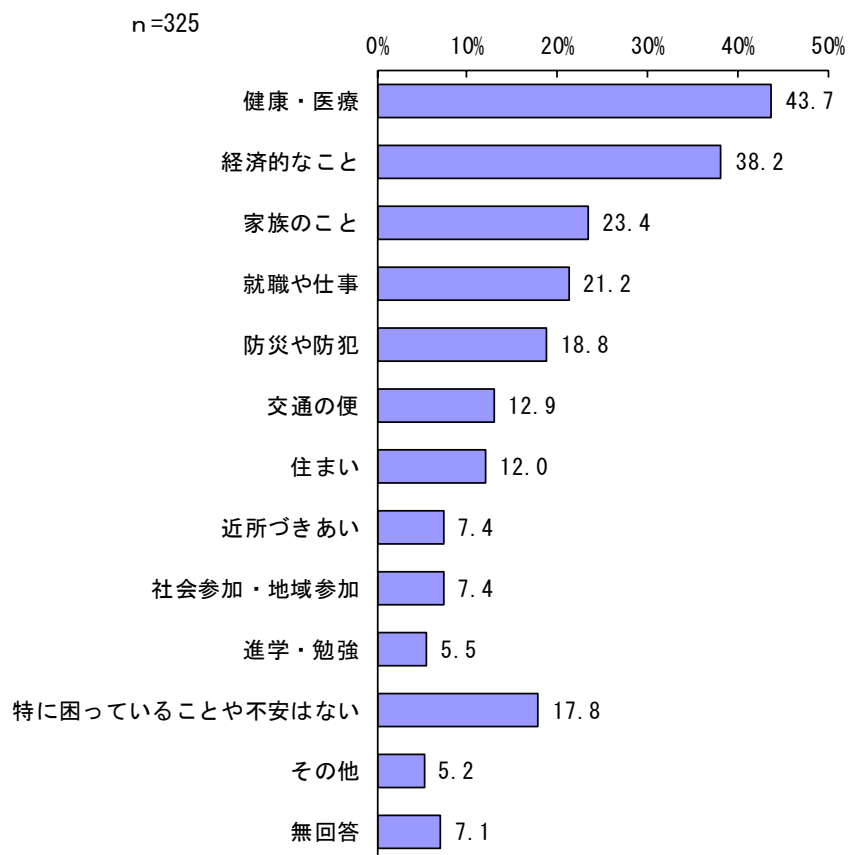
問 29 あなたは、福祉サービス等の情報について、どのように入手していますか。(あてはまるものすべてに○印)



福祉サービス等の情報入手手段は、「広報など」が47.7%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「新聞、テレビ等」が24.6%、「支援センター等の相談窓口」が23.4%、「家族・親族」が22.8%と2割を超えて続いています。

(2) 困っていることや不安なこと

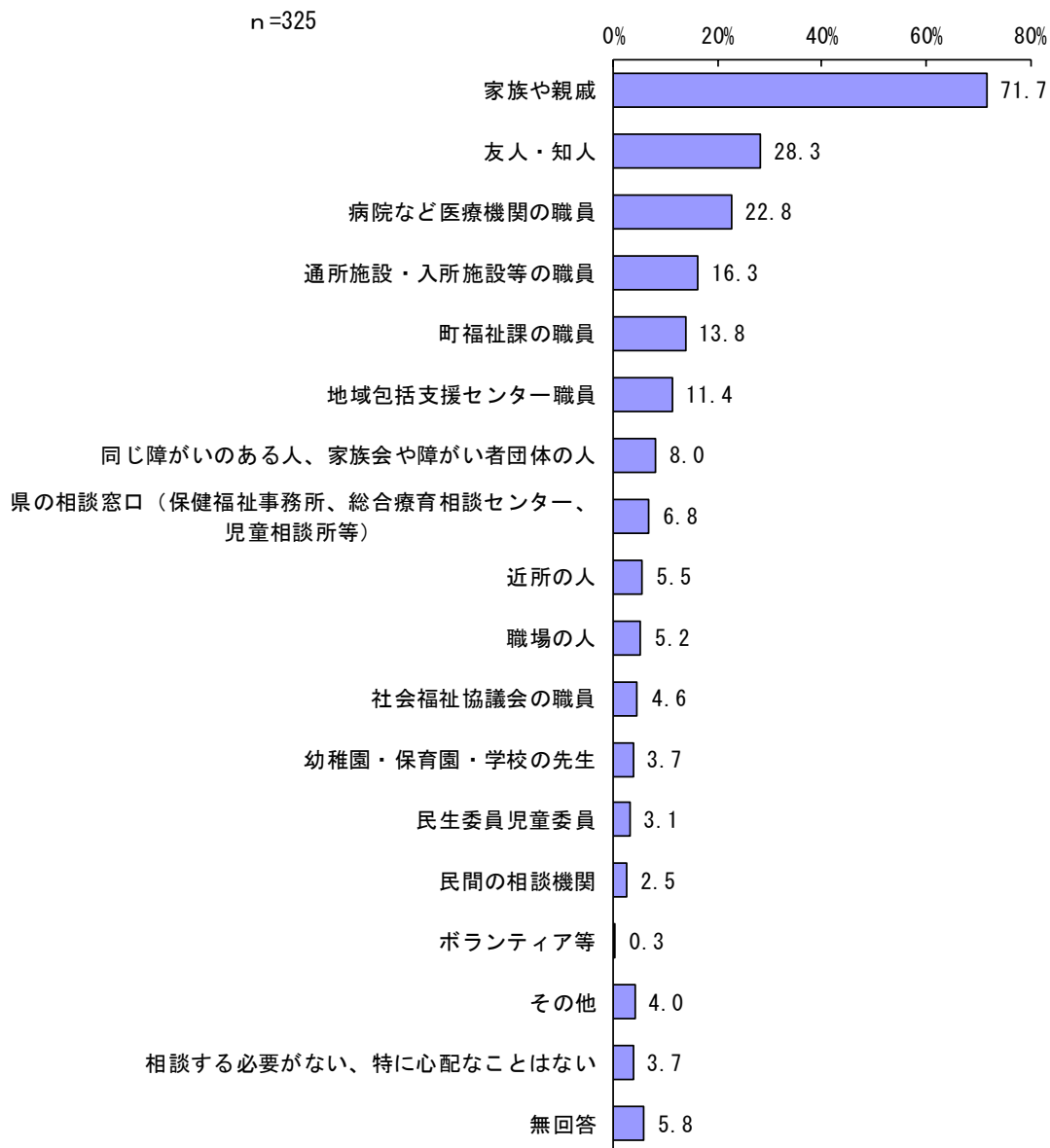
問 30 現在あなたが困ったり、不安に思っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)



現在の困っていることや不安なことは、「健康・医療」が43.7%と4割を超えて最も高く、次いで「経済的なこと」が38.2%、「家族のこと」が23.4%、「就職や仕事」が21.2%と続いています。

(3) 相談相手

問 31 あなたは、困ったり、不安に思っていることをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○印)



困っていることや不安なことの相談相手は、「家族や親戚」が 71.7%と 7 割を超えて突出して高く、次いで「友人・知人」が 28.3%、「病院など医療機関の職員」が 22.8%と 2 割を超えて続いています。

【知的障害の種類別】

単位 (%)		回答数 (n)	家族や親戚	近所の人	友人・知人	職場の人	同じ障がいのある人、家族会や障がい者団体の人	ボランティア等
全体		83	65.1	3.6	20.5	8.4	18.1	1.2
知的障害の種類別	知的障がい	65	60.0	3.1	18.5	7.7	16.9	0.0
	発達障がい	27	81.5	3.7	33.3	7.4	25.9	3.7
	その他	4	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0

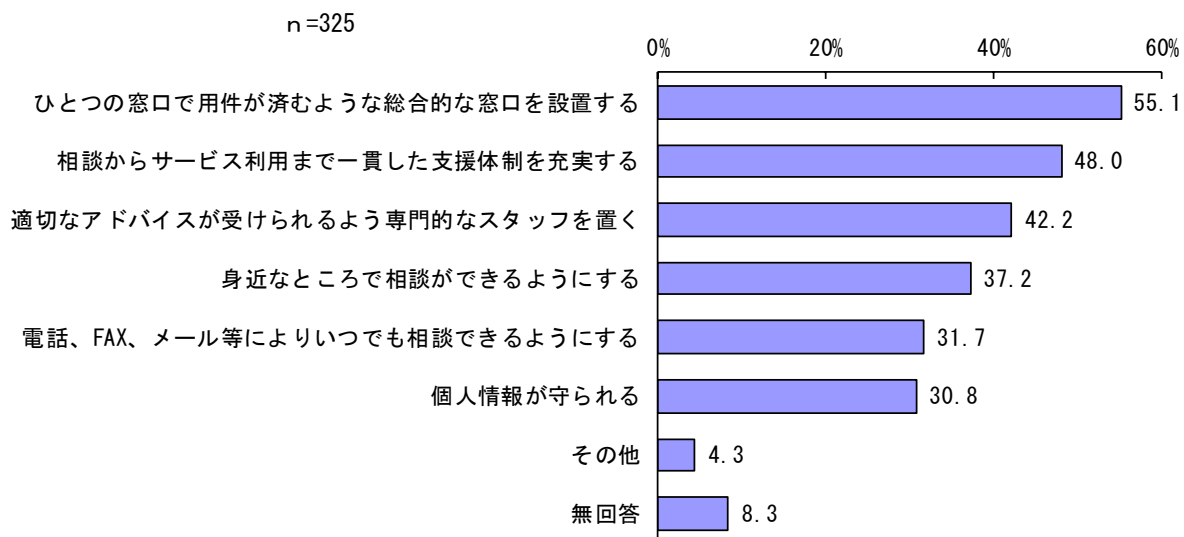
単位 (%)		回答数 (n)	民生委員児童委員	民間の相談機関	町福祉課の職員	県の相談窓口(保健福祉事務所、総合療育相談センター、児童相談所等)	地域包括支援センター職員	通所施設・入所施設等の職員
全体		83	3.6	4.8	16.9	8.4	13.3	43.4
知的障害の種類別	知的障がい	65	0.0	1.5	18.5	4.6	13.8	46.2
	発達障がい	27	11.1	7.4	11.1	18.5	7.4	40.7
	その他	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0

単位 (%)		回答数 (n)	病院など医療機関の職員	幼稚園・保育園・学校の先生	社会福祉協議会の職員	その他	相談する必要がない、特に心配なことはない	無回答
全体		83	16.9	12.0	4.6	4.0	3.7	5.8
知的障害の種類別	知的障がい	65	18.5	7.7	3.1	4.6	1.5	10.8
	発達障がい	27	25.9	22.2	7.4	3.7	3.7	0.0
	その他	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

知的障がいの種類別に見ると、いずれの障がいも「家族や親戚」が最も高く、特に“発達障がい”は81.5%と8割を超えて突出して高くなっています。また、“知的障がい”と“発達障がい”ともに「通所施設・入所施設等の職員」が4割以上で高くなっています。

(4) 相談機能を充実に必要なこと

問 32 相談機能を充実するために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

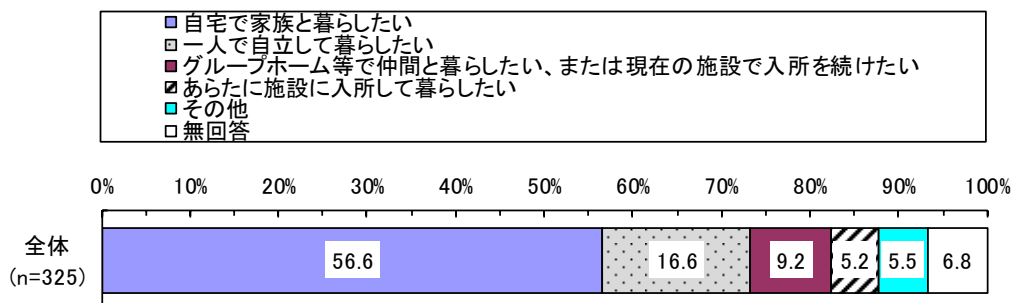


相談機能を充実するために必要ことは、「ひとつの窓口で用件が済むような総合的な窓口を設置する」が 55.1%と 5 割半ばで最も高く、次いで「相談からサービス利用まで一貫した支援体制を充実する」が 48.0%、「適切なアドバイスが受けられるよう専門的なスタッフを置く」が 42.2%と 4 割を超えて続いています。

11. 今後のあり方について

(1) 将来の暮らし方希望

問 33 あなたは、将来どのような暮らし方をしたいですか。(1つに○印)



将来の暮らし方希望は、「自宅家族で暮らしたい」が56.6%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「一人で自立して暮らしたい」が16.6%、「グループホーム等で仲間と暮らしたい、または現在の施設で入所を続けたい」が9.2%となっています。

【手帳の種類別】

手帳の種類別	単位 (%)	回答数 (n)	自宅家族で暮らしたい	一人で自立して暮らしたい	グループホーム等で仲間と暮らしたい、または現在の施設で入所を続けたい	あらたに施設に入所して暮らしたい	その他	無回答
全体		325	56.6	16.6	9.2	5.2	5.5	6.8
身体障害者手帳		180	60.0	16.7	6.7	5.0	4.4	7.2
療育手帳		83	43.4	12.0	21.7	9.6	7.2	6.0
精神障害者保健福祉手帳		39	71.8	15.4	2.6	0.0	5.1	5.1
自立支援医療(精神通院医療)		55	58.2	20.0	3.6	3.6	9.1	5.5

手帳の種類別に見ると、いずれの手帳所持者も「自宅家族で暮らしたい」が最も高く、特に“精神障害者保健福祉手帳”では71.8%と7割を超えて他の手帳所持者よりも高くなっています。また、“療育手帳”では「グループホーム等で仲間と暮らしたい、または現在の施設で入所を続けたい」が21.7%と2割を超えて他の手帳所持者よりも突出して高くなっています。

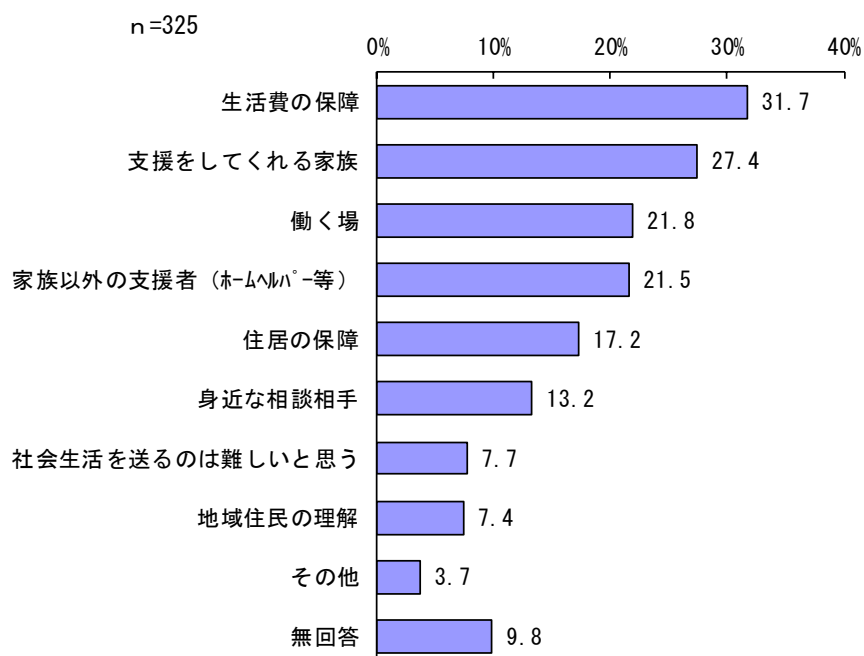
【知的障害の種類別】

単位 (%)		回答数 (n)	自宅で家族と暮らしたい	一人で自立して暮らしたい	グループホーム等で仲間と暮らしたい、または現在の施設で入所を続けたい	あらたに施設に入所して暮らしたい	その他	無回答
全体		83	43.4	12.0	21.7	9.6	7.2	6.0
知的障害の種類別	知的障がい	65	36.9	10.8	27.7	9.2	7.7	7.7
	発達障がい	27	51.9	18.5	14.8	11.1	3.7	0.0
	その他	4	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0

知的障がいの種類別に見ると、“知的障がい”と“発達障がい”ともに「自宅で家族と暮らしたい」が最も高く、特に“発達障がい”では51.9%と5割を超えています。また、“知的障がい”では「グループホーム等で仲間と暮らしたい、または現在の施設で入所を続けたい」が27.7%と“発達障がい”を12.9ポイント上回っています。

(2) 地域での自立した生活に必要な条件

問 34 あなたは、どのような条件が整えば、地域で自立した生活ができると思いますか。
(2つ以内に○印)



地域での自立した生活に必要な条件は、「生活費の保障」が31.7%と3割を超えて最も高く、次いで「支援をしてくれる家族」が27.4%、「働く場」が21.8%、「家族以外の支援者 (ホームヘルパー等)」が21.5%と2割を超えて続いています。

【同居人別】

	単位(%)	回答数 (n)	働く場	住居の 保障	生活費 の保障	地域住民 の理解	支援をし てくれる 家族	家族以外 の支援者 (ホーム ヘルパー 等)	身近な相 談相手	社会生活 を送るの は難しい と思う	その他	無回答
全体		325	21.8	17.2	31.7	7.4	27.4	21.5	13.2	7.7	3.7	9.8
同居人別	父母、祖父母、兄弟	132	33.3	18.9	29.5	8.3	26.5	19.7	10.6	12.1	3.8	6.8
	配偶者	128	15.6	14.1	35.9	4.7	32.0	24.2	15.6	0.8	3.9	11.7
	子ども	61	19.7	9.8	37.7	11.5	34.4	19.7	14.8	0.0	4.9	11.5
	その他親族	5	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	一人で暮らしている	30	13.3	33.3	43.3	10.0	20.0	10.0	20.0	0.0	3.3	6.7
	施設・寮などで共同生活	18	5.6	11.1	11.1	11.1	16.7	27.8	11.1	27.8	0.0	16.7
	病院に入院	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0
	その他	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3

同居人別に見ると、同居人が“父母、祖父母、兄弟”では「働く場」が33.3%、“子ども”では「支援をしてくれる家族」が34.4%と3割を超えて最も高くなっています。“施設・寮などで共同生活”と“病院に入院”では「家族以外の支援者（ホームヘルパー等）」と「社会生活を送るのは難しいと思う」が同じ割合で高くなっています。また、“その他親族”と“一人で暮らしている”は「生活費の保障」が4割を超えて高くなっています。

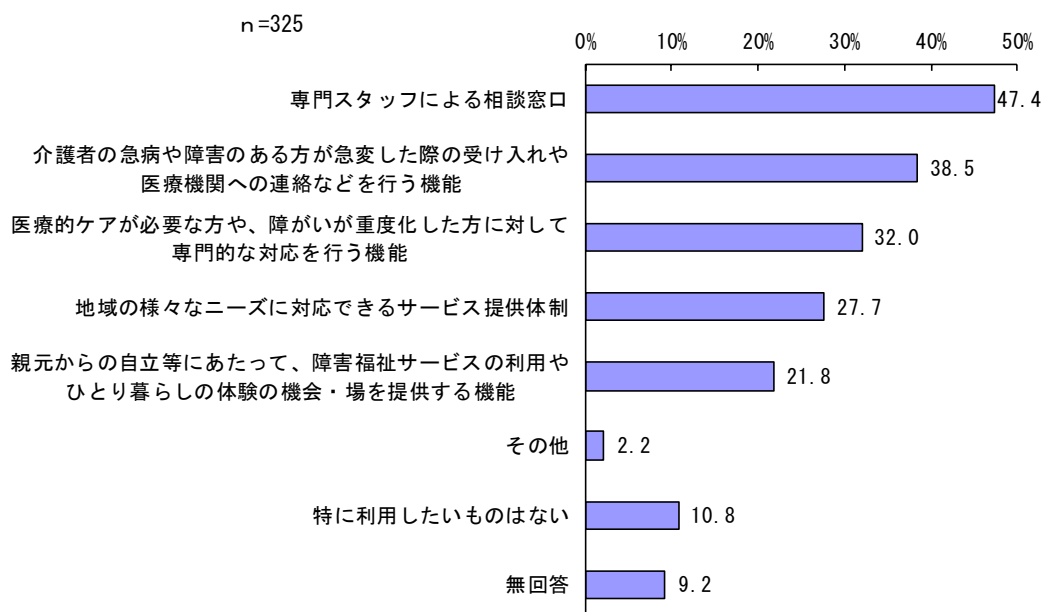
【知的障害の種類別】

	単位(%)	回答数 (n)	働く場	住居の 保障	生活費 の保障	地域住民 の理解	支援をし てくれる 家族	家族以外 の支援者 (ホーム ヘルパー 等)	身近な相 談相手	社会生活 を送るの は難しい と思う	その他	無回答
全体		83	24.1	9.6	18.1	10.8	31.3	28.9	12.0	15.7	3.6	7.2
知的障害の種類別	知的障がい	65	16.9	10.8	12.3	10.8	30.8	30.8	12.3	20.0	4.6	9.2
	発達障がい	27	37.0	14.8	25.9	7.4	33.3	25.9	7.4	14.8	3.7	0.0
	その他	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0

知的障がいの種類別に見ると、“知的障がい”では「支援をしてくれる家族」と「家族以外の支援者（ホームヘルパー等）」という直接的な支援者がともに30.8%と3割で最も高くなっています。また、“発達障がい”では「働く場」が37.0%と“知的障がい”を20.1ポイント上回っています。

(3) 利用したい地域生活支援事業の機能

問 35 町では現在、地域生活支援拠点等事業※の整備について検討していますが、以下の機能についてあなたが利用したいものはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)



利用したい地域生活支援事業の機能は、「専門スタッフによる相談窓口」が47.4%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「介護者の急病や障害のある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能」が38.5%、「医療的ケアが必要な方や、障がいが重度化した方に対して専門的な対応を行う機能」が32.0%と3割を超えて続いています。

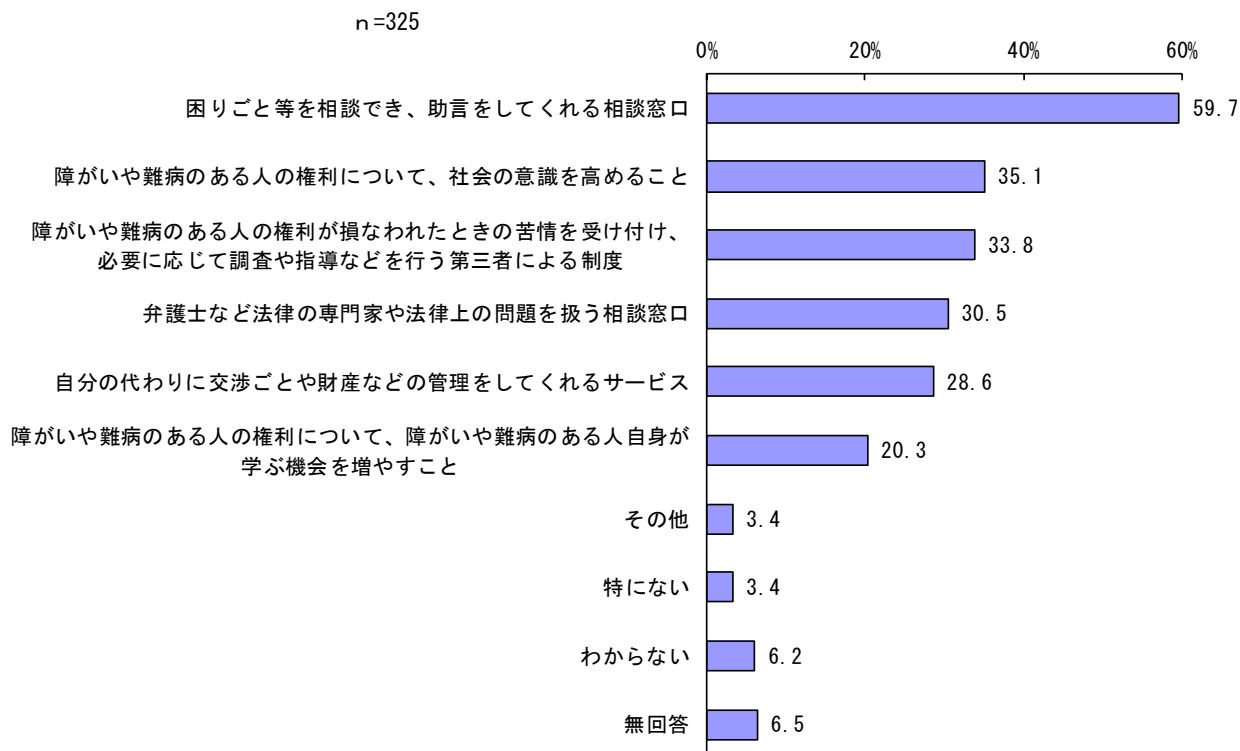
【年代別・手帳の種類別】

	回答数 (n)	専門スタッフによる相談窓口	介護者の急病や障害のある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能	親元からの自立等にあたって、障害福祉サービスの利用やひとり暮らしの体験の機会・場を提供する機能	医療的ケアが必要な方や、障がいが重度化した方に対して専門的な対応を行う機能	地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制	その他	特に利用したいものはない	無回答
全体	325	47.4	38.5	21.8	32.0	27.7	2.2	10.8	9.2
手帳の種類別									
身体障害者手帳	180	44.4	45.6	10.0	36.1	27.8	2.2	7.8	8.9
療育手帳	83	49.4	38.6	44.6	31.3	34.9	3.6	10.8	6.0
精神障害者保健福祉手帳	39	46.2	25.6	30.8	25.6	17.9	2.6	17.9	12.8
自立支援医療(精神通院医療)	55	61.8	40.0	27.3	34.5	25.5	0.0	10.9	10.9

手帳の種類別に見ると、“身体障害者手帳”では「介護者の急病や障害のある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能」が45.6%と最も高くなっています。それ以外の手帳所持者では「専門スタッフによる相談窓口」が最も高く、特に“自立支援医療(精神通院医療)”では61.8%と6割を超えて他の手帳所持者よりも高くなっています。また、“療育手帳”では「親元からの自立等にあたって、障害福祉サービスの利用やひとり暮らしの体験の機会・場を提供する機能」が44.6%と他の手帳所持者よりも突出して高くなっています。

(4) 障がいのある人の権利擁護の取り組み

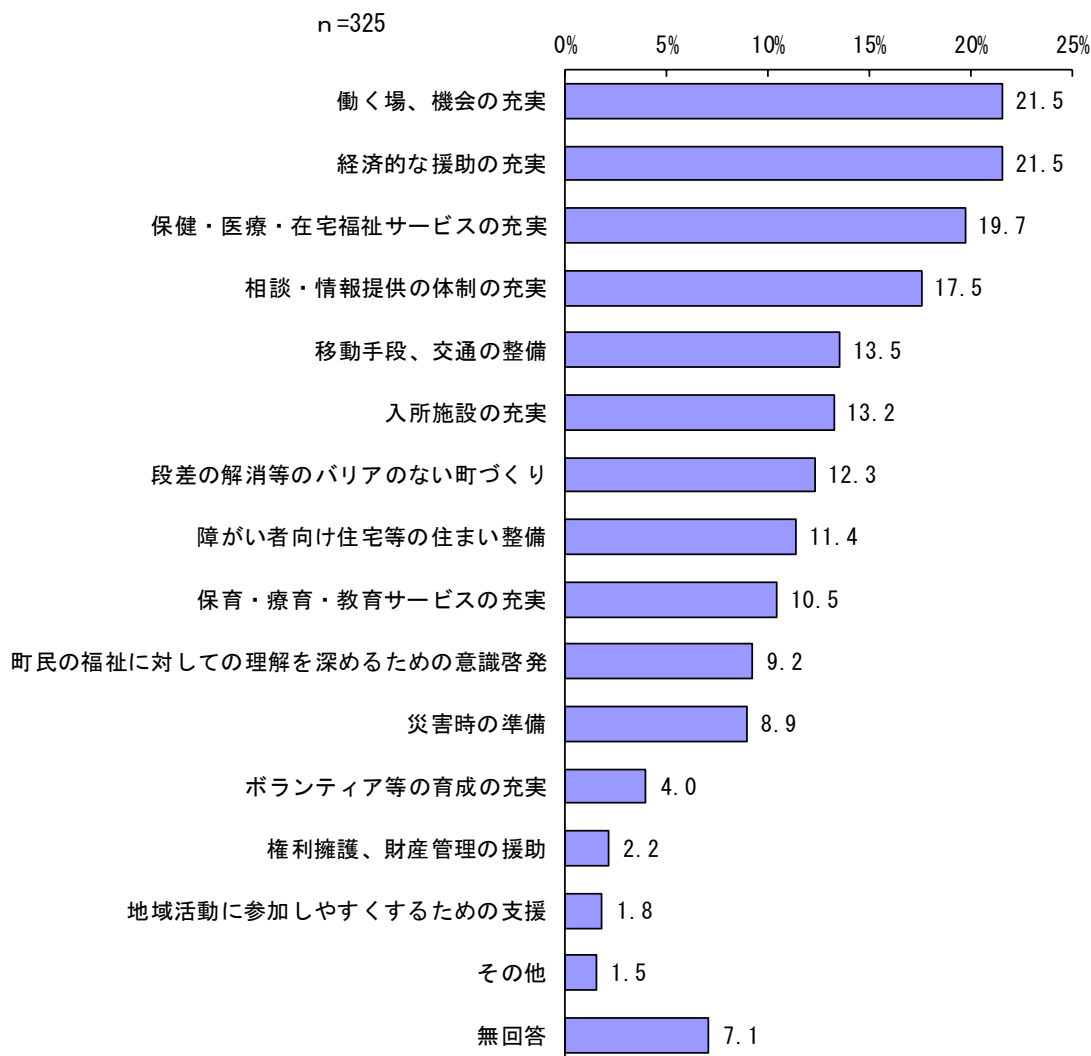
問 36 あなたは障がいのある人の権利が奪われたり、損なわれないようにするために、どのような手助けや取り組みがあると良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)



障がいのある人の権利擁護に必要な取り組みは、「困りごと等を相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が 59.7%と約6割で突出して高く、次いで「障がいや難病のある人の権利について、社会の意識を高めること」が 35.1%、「障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受け付け、必要に応じて調査や指導などを行う第三者による制度」が 33.8%、「弁護士など法律の専門家や法律上の問題を扱う相談窓口」が 30.5%と3割を超えて続いています。

(5) 今後力を入れるべき障がい福祉施策

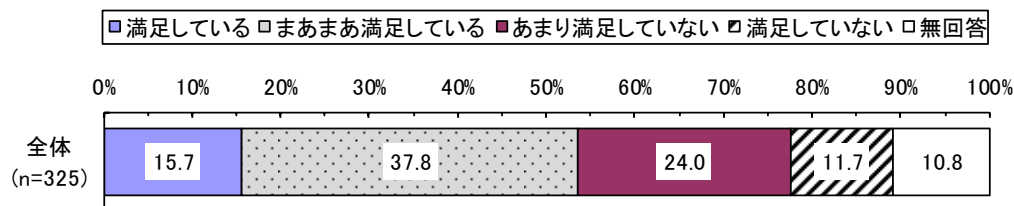
問 37 今後、障がい福祉施策を充実させるためにどのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(2つ以内に○印)



今後、町が力を入れるべき障がい福祉施策は、「働く場、機会の充実」と「経済的な援助の充実」がともに 21.5%と 2 割を超えて最も高くなっており、経済的な自立を求める傾向がうかがえます。次いで「保健・医療・在宅福祉サービスの充実」が 19.7%、「相談・情報提供の体制の充実」が 17.5%と福祉サービスの充実を求める項目が続いています。

(6) 大磯町の障害福祉サービスの満足度

問 38 大磯町の障がい福祉サービスについての満足度をお聞きします。(1つに○印)



町の障害福祉サービスの満足度は、「満足している」が15.7%、「まあまあ満足している」が37.8%となっており、二つを合わせた『満足』は53.5%と5割を超えています。反対に「あまり満足していない」が24.0%、「満足していない」が11.7%で、二つ合わせた『不満』は35.7%となっており、『満足』が『不満』を17.8ポイント上回っています。

【年代別・手帳の種類別】

単位 (%)		回答数 (n)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体		325	15.7	37.8	24.0	11.7	10.8
年代別	19歳以下	33	3.0	36.4	39.4	18.2	3.0
	20歳代	24	8.3	29.2	37.5	16.7	8.3
	30歳代	26	15.4	23.1	42.3	11.5	7.7
	40歳代	47	25.5	38.3	14.9	10.6	10.6
	50歳代	48	8.3	35.4	33.3	14.6	8.3
	60歳代	59	13.6	44.1	23.7	6.8	11.9
	70歳以上	83	24.1	39.8	9.6	10.8	15.7
手帳の種類別	身体障害者手帳	180	18.9	42.8	16.7	12.2	9.4
	療育手帳	83	13.3	26.5	41.0	12.0	7.2
	精神障害者保健福祉手帳	39	12.8	46.2	12.8	10.3	17.9
	自立支援医療(精神通院医療)	55	7.3	36.4	23.6	14.5	18.2

年代別に見ると、30歳代以下では「あまり満足していない」が最も高く、40歳代以上では「まあまあ満足している」が最も高くなっています。『満足』は“40歳代”と“70歳以上”が6割を超えて他の年代よりも高くなっており、それ以外の年代では『不満』の割合が『満足』を上回っています。

手帳の種類別に見ると、“療育手帳”では「あまり満足していない」が41.0%と他の手帳所持者よりも突出して高く、それ以外の手帳所持者では「まあまあ満足している」が最も高くなっています。また、“療育手帳”では『不満』が『満足』を13.2ポイント上回っています。

12. 自由意見

障がい児・者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

自由回答は下記のとおりです。

◆福祉サービスについて (20件)

- ・放課後デイサービスの受給上限が証明書等の提出により月23日まで認められるようになったのは素晴らしいサービス向上で心より感謝します。一方、子どもが公共交通機関を使って一人で通学通所できるようになるための支援がありません。1~3か月の期間限定で移動支援サービスを訓練のため使用してもいいと認めていただきましたが、支援は往路のみ、復路は自費でまかなうようにとされています。ヘルパーさんは同行して行った以上帰ってくる必要があるわけですが、帰りの実費は1時間3000円以上になり、毎日の利用は経済的に難しく、断念せざるをえません。しかし、成長にともない通学距離は長くなります。中学までは往復1時間で現状は親が仕事を休んだり時間をずらして訓練の対応をしています。対応は出来ませんが、高校からは2時間になり家族での対応は困難です。現在中学1年なのであと2年しかありません。それまでに是非訓練のための移動支援への往復の支援サービスを認めていただきたく切に願います。
- ・移動支援や短期入所など受け入れてくれるところがない。または断られる。なので希望すれば受け入れてほしいと思います。
- ・相談受付からサービス利用まで一貫した体制の充実を希望します。また申請手続きが出来るだけ簡単なものであることも希望します。自分がサービスを受けられる資格があるか否かなど自身で調べて申請するという一連の手続きが大変困難な場合もあり、単身者だと利用したくても利用出来ないことも考えられます。通院先の医師等がサービス申請を受けられる手続きを教えてくれるなど何かしら支援があると助かります。
- ・もっとサービスを増やして欲しい
- ・日常生活用具の給付を受けており、感謝しています。年間の給付金額が減額されることのないようにお願いします。大地震、大津波があったときに避難生活ができるよう避難場所の確保をお願い致します。
- ・今は母が少し元気がありますが、子どもより先に旅立ちをした際どこか施設に入所をお願いします
- ・入所施設を増やし、重度・中度・軽度でも必要な人が入所できたらいいです。親がいなくなった時に必要な人が入所出来れば安心です。
- ・聴覚障害者とボランティア、子ども達をコミュニケーションやデイサービス等で関わりある場所を広めてほしい。共に協力出来る機会を作ってください。
- ・一つ一つの障がいの特徴をきちんと理解して必要なサービスを出来るようにお願いしたい。
- ・サービス内容がよくわからない。資格があるのかよくわからない。聞きたくても外出できず相談も出来ない。介護保険と連携したサービスの一元化がされるといい。実際は介護保険に頼っているのが現状。医療費の助成は年金のみの収入なので助かる。
- ・短期入所、日中一時の利用出来るところが大磯もしくは二宮につくってほしい。
- ・高齢になってからの障がいのため医療費の公費助成がない。介護保険の利用も負担が多く、保健・医療・福祉サービスの利用にためらいがある。計画的な利用だけでなく突発的に必要な時に利用出

<p>来たらうれしい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 定期的に医師の検診を受けていますが、今のところ生活に支障をきたすような症状の進行は止まっていますので、将来家族やホームヘルパーさんなどの介護を受けながら在宅介護で過ごせるように希望しています。
<ul style="list-style-type: none"> 私は1週間に2回ケアセンターに通っております。とても充実した生活を送っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
<ul style="list-style-type: none"> 手話通訳者あるいは聴覚障害者を理解して色々置いて欲しい
<ul style="list-style-type: none"> 学校への自力登校が難しいので移動支援の通学利用などのサービスの充実を願っています。
<ul style="list-style-type: none"> 障がいまた持病が多くあり医療費が多額で大変でしたが、大磯町医療費助成を受けられるようになりとても助かり有り難く思っております。
<ul style="list-style-type: none"> 公共料金割引のところ、障がい者タクシー利用料金助成制度のところ。水道料金の減免、障がいが進んでいるのに3級になったのがおかしい。1級も3級も障がい者タクシー利用助成制度や水道料金の減免をしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 今後ともかたつむりを頼りとしてやっていくほかありません、頼りにしております。
<ul style="list-style-type: none"> 重度の重複障害を持っている人のショートステイがあまりない。あっても利用出来ない。大磯町にもない。地域で、自宅で長く生活するためにショートステイの定期的利用が不可欠だと思う。親はどんどん年をとり子どもはどんどん成長する。色々な支援がなくては自宅で生活していきたくてもできない。親が定期的に休むことが出来なければ長い将来肉体的にも精神的にも負担は多くなる。お互いに。したがって、ショートステイが出来るところを大磯町、二宮につくってほしい。

◆行政・施策について（18件）

<ul style="list-style-type: none"> 障害者の両親が亡くなった時に放り出された時に助けてもらえるとありがたいと思います。障害者が支援を受けながら一人で暮らせたなら理想ですが、経済的な不安が一番大きいです。それから継続的に見守ってくれるとありがたいです。重度の障害の方だけでなく、軽い方にもそういう制度が適用されたいと思います。障害が軽いとされる方でも一人で生きていくのは難しい人が多いと感じるからです。
<ul style="list-style-type: none"> 収入がない人にとっては家族が援助する方法しかないと思いますが、その家族も生活していく上で大変難しく考える時間もあります。働けない、収入がない人には、年金のような経済的に少しでも助けていただけると先の見通しが立ち安心します。
<ul style="list-style-type: none"> 障がいがこれ以上悪くならないよう不安に思いながら治療を受けています。全ての人が最善の治療を受けられるよう経済的面など不安なく過ごせるよう支援してほしい。障がいの差があるので、見た目で見断しないでほしい。とにかく将来の不安が常にあります。
<ul style="list-style-type: none"> タクシー助成券金額の増額、利用地域の拡大。JRの単独利用の際も半額にしてほしい。情報を一元化して伝えてほしい。現状として受けられるサービスを自ら調べないとわからないシステムになっているので、行政側から詳しく提案していただけるシステムにして下さい。ヘルプマークの認知度が低すぎるので広告等でもっと認知度を上げてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 家族が身体障害者手帳を持っており要介護2ですが、リハビリを利用しヘルパーさんに来て頂き何とか生活が出来ています。医療と訪問介護、包括支援、ショートステイの流れを総括した案内がスムーズにでき、受け答えが出来るような町になってほしいと願います。老人が増えるこの時代、大磯は特に老人の方が多い気がします。空いている土地をいち早く早急にホームや有料マンションなどにして充実し安

<p>定した生活が送れるようにしてもらいたいと思います。住民がよそに移らないためにも手厚い支援が求められる時代なのではないでしょうか。税金を納得できる使い方をしてほしいものです。この声が本当に届けられるのかも気になります。観光も大切ですが、福祉の力を入れていただけると助かります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・現在小学生なので先のことはわかりません。二人で生活しているので細かいところで困ります。インフルになり仕事を休まなくてはならないなど、急な困りごとに対応してほしいともあります。また一人で行動させることが出来ないのも、普段の生活の中で落ち着いた行動を取れるための支援がほしいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・こちらの要望や希望を言っても行政はすぐに対応してくれないので即対応の出来る体制をつくってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・大磯町は福祉に関してとても親身であり親切だと思います。子どもの成長と共にもっと町に対してこうなったらいいのに、こういうことを助けて欲しい等出てくると思いますが、その時に相談に行こうと思える人や雰囲気が備わっている印象があります。
<ul style="list-style-type: none"> ・公共料金の割引について割引の拡大または充実を希望します。
<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険提言をもっと広げてほしい。大磯町は他の町に比べると財政が苦しいと聞きましたが、良くやってくれていると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体に比べて遅れている面は速やかに追いつき追い越して、当事者・家族・支援者全てに利用しやすく日々の暮らしに役立つ施策を充実させてほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市との連携が取りやすくなると有り難い
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の事を考えると不安しかない。充実した福祉施策に期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・大磯町は穏やかでとても住みやすいです。中途障がいになり私も辛かったが、それを支える家族にも負担を与えたので障がいを持つ家族・本人が仲間を作れる場、コミュニティがあると心の支えができ、前向きな心になると思います。障害者同士が定期的に会える場を作ってほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の人の医療費の補助、平成26年から補助がなくなった
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対するサービス提供出来る事業所が不足しているということを知りました。また障がいの種類、その子も特質によってスムーズにサービスを受け入れてくれる事業所がなく困っている。必ずサービス提供側の返答はスタッフが不足している、そのような障がいを持つ方のサービス経験がないので出来ない、等です。困っている介護者に手を差し伸べてくれるような行政のあり方を考えてほしいと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・次期福祉計画の策定にあたりより多くの方法で当事者の意見を取り上げて下さい。町の福祉施策に失望感を持っています。住民の立場で考える職員や町長を期待しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・町と福祉事業者がうまく連携して信頼関係を築いていただくことを希望します。

◆相談について（12件）

<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様なので実家の事情をもとに現在父親に日々の生活の面倒をみてもらっている。父親が面倒を見れなくなった時のことについてどこへ相談に行くのがいいのかわからない。役場の窓口はどこでも親切ではあるが具体的な内容になると要領を得ない。このアンケートも多様なゆえに回答しにくいところがある。まずは問29～32を充実させてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・夫と二人暮らしだが、離婚したい気持ちもありどうしたらいいのかわからない、考えるだけで不安、ど

ここに相談したらいいのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・相談や諸手続を利用できるようにしてほしい。高齢化に伴うこれからの生活全般に対応していただけるような配慮。
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害支援センターかながわAを数回利用させていただきましたが、正直支援とは名ばかりで電話窓口の方は丁寧な受け答えではありませんでしたが、具体的にどうしたらいいのかという方法は何も示してくれませんでした。日常の困りごとが非常に多く、定期的に相談できる窓口がほしいです。今は遠方の病院のカウンセラーさんと精神保健福祉師さんに月1回相談させていただいて、何とか助かっています。大人の発達障害者はめんどろ、みたくない、という風がある気がします。ぱっと見は健康体である私たちですが、内面はとても多くの困難を抱えています。もっと理解と支援が進むことを願うばかりです。
<ul style="list-style-type: none"> ・精神的障害について、まわりから理解が得られず生活していく上で困難を感じます。障害のあるもの一人一人違いはありますが、医師にもわかってもらえないこともあり辛い日々が多くあります。時間をかけてゆっくり相談できる方がいたらいいと思います。2月1日発行の大磯町社会福祉退会で福祉作文コンクールで荻村明希穂さんの作文を読み感動しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に親切に対応していただき感謝しております。出来るだけ自立していけるように心掛けていますが、困った時には連絡させていただきたいと思っています。ありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉センターが不便なところにあるので駅の近くにあると助かります。現在心療内科に通院しているのですが、大磯町にはなく遠くまで通っているのが、大磯町でも気軽に行ける病院がほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・大磯町の相談できる相談員の数を増やしてほしい。現在特定の人しか相談できず緊急時に対応が不安です。様々なサービスを受けているのに日数がかかりすぎる。もっとスピーディーにやってほしい。大磯町の本庁舎にも障害者の窓口をつくってほしい。保健センター内でもいい。
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後デイサービスを利用したいが相談したのに断られた。おかげで家族の負担が多く家族もうつになりとても大変である。なぜ利用できないのか。利用する場も待ちになるというので、もっと数を増やしてほしい。病院など色々相談したいが、誰に相談していいのかわからず誰にも聞けず困っている。家族が抱えている問題は多い。手帳の更新など時期やお知らせくらいはしてほしい。勝手に手続きに来いというのはひどい。
<ul style="list-style-type: none"> ・平塚にはこども発達支援室があるが、大磯町には何もない。自分たちで情報収集しないと誰かがフォローしてくれることもない。小学校にあがる時も何に相談したらいいのか、どこに相談しに行けばいいのか、不安ばかり。町としては障害児に対して何をしてくれるのか何もわかりません。
<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがあるなしにかかわらず、年齢を重ねると一人で生活が大変になる。その時に町として何をどうしていただけるのか実のところわかりません。何でも相談と言われますが、中々手が届きません。もっと簡単に施設、ホームに入所できるようになればいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・第三者により相談がもっと気軽に出来るように。医療関係です。

◆福祉に関わる人について（6件）

<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校、支援級の先生、支援員さんが不足しているように思います。人手が足りないため支援級全体が余裕がなく雰囲気もよくないです。要望も言いづらいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員（児童委員）の民度が低くて困る。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者施設スタッフの経済的向上、世間の若い女性より10万円も低ければ長続きしない。ましてや結婚

も出産も出来ない。少子高齢化時代に逆行した給与体制である。団塊世代が後期高齢者になる前に抜本的給与改善が必須である。関係者一丸となって政治に訴えなければ介護制度の崩壊が目に見えている。強く希望する。

・健康な人も老い、元気な若者も事故にあえばいつでも障がい者になりうる時代、五体満足な人だけの社会ではなく、人が人を支える大磯町になってほしいと願っています。町広報も身近な話題や一人一人が支え合って町が成り立っていることを温かい町であることを目指していることが伝わるといいと思います。家に居ると民生委員、他遠い人に感じ、ちょっと寂しく感じられます。町の当事者だけでなく、町全体の人が思いやりを持てる大磯町になるよう願っています。

・素人が障害者福祉窓口で対応しています。障害者は児童から成人、高齢者まで幅広く、なおかつ移行しています。障害種別や年齢で担当者をわけることなく全てにおいて知識を持ち、一貫した支援を出来る職員をしっかりと配置すべきです。このままだと、大磯町はだめになります。福祉貧乏の町に。設問自体がすでに縦割りです。全人的にもものを捉えていないことを露呈しています。答えていると不愉快になりました。

・担う職員の充実（専門知識や行動力、人員数）がなければ何も実現しない。

◆障がいの理解・啓発について（6件）

・発達障がい、グレーゾーンの子の対応に不満があります。判定も難しく学校の先生でさえ理解されておらず相談出来ずに、就学前には対応してくれるのに小中学校中は不十分な対応でした。高校にあがり県の教育相談で少しは心が救われました。大磯町の対応を見直していただきたいです。コミュニケーションが苦手な上、学校、親の無理解など指導が行き届いておらず、鬱状態になり二次障害となります。

・大磯町内で聴覚障害に関する啓発が進んでいるとは言えず、支援者の育成も足りていないと思う。当事者団体についてもろう者の団体だけでは高齢による難聴者を支援する団体ともパイプを持ってほしいと思う。手話や要約筆記、聴覚障害について教育施策の中でも取り上げて意識を早いうちから高めて欲しい。

・大磯内では100人を越す車イス利用者がいるようですが、私はあまり見かけることがありません。彼らが積極的に外に出て人々の目にとまり交流するようになると社会全体の意識が理解、援助、非差別の方向に進むと思います。また健全な人々の間で車イス利用して町歩き、目隠しなどの体験学習会をすることで想像力も養われるのではないのでしょうか。

・障がいを持っている方と健常者がお互いに気遣いなく暮らせる町になってほしいと思います。そのために、行政が理解を深めて啓蒙活動を広く行い、広報にも子ども・老人のお知らせを見ますが障害児の記事が見られません。障害者施設での物品販売も役場のみで行っているようですが、駅や図書館等、人が常に流れているところでも出来ると思います。中学校でパンの販売を行うことで生徒と教員、障がい者との交流、相互理解が深まるのではないかと思います。

・自立支援医療を利用しているだけで勝手に障がい者と決めつけられて、アンケートを送りつけられることに不快感を強く感じる。こういったことをすることが障がい者を特別な目で見ているように感じる。私は仕事も正社員でしているし、一人暮らしもしている。ただ病気があるだけ。高血圧や糖尿病と同じようなもの。この人たちを障がい者と呼ぶでしょうか。そういう考えがある時点で差別をなくそうなんて無理な話。障がい者に配慮しようとして障がい者という枠組みを勝手に押しつけて支援する側が差別をしている。そもそもそんな啓発活動をしようとしたって、差別はなくなる。理解をしてもらおうこ

とが本当に幸せなののかも疑問。不必要な過剰な支援は人をだめにすると思う。人をだめにする支援は本当の支援ではないと思う。福祉畑の人たちは手厚くすることが支援だと思っている。今後も障がい者福祉に期待は出来ない。

- ・働く機会に恵まれても、職場の方々の障がいに対する理解度が低く、結果的に職場を退職するケースが多々ある。従って、めんどくさい、言ってもわからない等、他の人への影響を考えると企業にとっては損失と考えるのであろう。またいじめがあり、企業人として認められない面が企業内部ではびこっているし、思想的な人までいるのが現状である。企業としては行政からの補助金が入ればOKという考えの経済者も多々散見される。

◆アンケートについて（6件）

- ・私の場合は、身体障害者手帳を持っていますが、内部障害のため特に不自由はないのでこのアンケートは答えられない。福祉サービスを利用していないのに答えなければならないのでしょうか。サービスを利用していない人はそこで質問を打ち切った方がいいと思います。先のことを聞かれても状態が悪くなれば病院に行くのでその時になってみないとわからないです。質問しなければならぬのであれば、別々のアンケート用紙にする方がいいと思います。
- ・質問内容が均一的でこたえに苦慮、状態が千差万別である。右半身不自由なものが13年経過して働くかと聞かれてどう答えるのか。移動、外出するにも1か月タクシー券4枚ではどのように分配しますか。本当にアンケートする気持ちか聞きたい。アンケートで趣旨が不明で答えに困った。この集計で何ができるのかがわからない。
- ・今回は高度な意思疎通を取りかねる本人にかわり家族が本人ならそう思うであろうことを代弁するかたちで回答している。しかしながらこのアンケートは本人に確固たる意志があり、法律のような複雑で抽象的な概念を理解し、その意志を表明できることを前提として作成されている、家族としてはどの立場で回答すべきなのか考え終始回答が辛かった。
- ・質問が多すぎて疲れしました。もう少し簡単をお願いします。
- ・90歳と高齢であり知らないことや理解出来ないことばかりです
- ・私は45年以上住んだ貸家は立ち退きされた家主、病院からの紹介でこゆるぎの里に入居させていただきました。糖尿病で一人生活は出来ません。老人ホームの職員さんの世話を受けています。平成30年4月から7月まで市民病院、7月9日より施設に。施設に入居して半月で再入院、2月に退院し施設に戻りました。よってアンケートの用紙を2月に受け取ったので大変遅れて申し訳ございません。

◆移動・バリアフリーについて（5件）

- ・道路の整備、私は車イス生活なので災害時どのように逃げればいいのかわからないので困っている
- ・障がい者になり13年になります。今はデイサービスに週3日通い他の日は山林自転車で日中町内を走っています。しかし年5~6日タイヤのパンク、自転車のメンテナンスに費用がかかります。その費用の一部を補助してもらえれば助かります。三輪自転車で町を走るとストレスもなくなり薬のかかる治療費も少なくなり結果町も特だと思のですがどうでしょうか。病院に行く回数も減ると思います。
- ・歩道がひどく狭かったり雨水対策用なのか傾きがひどくて車イスが通りにくくてこわい。ということを一歩感じています。

・遊歩道の段差や斜めが不便だ。遠からず車イスが必要になるが、外出して通りに行くのに大変だと想像出来る。

・不安である。役場の移動が最優先、津波等災害がおきたら指揮命令できる位置にあるのだろうか。このアンケートは寝言としか思えない。黒岩より大磯病院へ行くバス、スクールバスなのは理解するが通院時間台のバスを増やしてほしい。暮らしにくい大磯町、町の収入を増やす努力が見られない。

◆情報について（3件）

・障がい者の個人のカルテのようなものを作成し、級・障がいをはじめ個々のかかっている病院・医師名・使用している用具の購入先、用品名、もしもの連絡先、その他必要と思われる項目を記入し、そのカルテを一枚見れば一目でわかるようにしておく。そうすれば災害時や独居の障がい者に何かあった時や介護者に何かあった時でもどこに連絡が必要で何をどこに依頼し用品を揃えるか等、町の方で把握していただけるので困らない障がい者も安心できる。

・障がい福祉サービスの職員さんが態度をよく変える。話し合おうと思って前に伺ったのですが、人の顔を見た途端小馬鹿にした顔をされてとても嫌でした。子育て支援課でももう少し情報を下さい。郵送しているんな情報を分け合ってほしいと思いました。

・個人情報を守ってほしい

**大磯町障がい者福祉計画策定のための
アンケート調査結果報告書**

令和2年3月

発 行：大磯町
編 集：町民福祉部福祉課

〒259-0111 大磯町国府本郷 1196
横溝千鶴子記念障害福祉センター内
TEL：0463(73)4530 FAX：0463(73)1285